

2015 年度（平成 27 年度）
学生による授業評価アンケート
実施報告書

福山大学 大学教育センター
教育開発部門

目 次

はじめに	1
1. アンケート調査の目的	2
2. アンケート調査の概要	2
3. 調査結果	11
(1) アンケート調査実施状況について	11
(2) 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）	11
① 授業の進め方について	12
② 話し方について	12
③ 授業の計画性について	13
④ 授業時間について	14
⑤ 講義の工夫について	15
⑥ 質問への誠意について	16
⑦ 難易度の適切性について	17
⑧ 講義の満足度について	18
(3) 調査結果の内容（学生の自己点検）	19
① 授業の準備について	19
② 集中力について	20
③ 出席状況について	21
④ 知識の深まりについて	22
⑤ 受講時の工夫について	23
⑥ 質問への積極性について	24
⑦ 意欲の高まりについて	25
⑧ 学習の成果について	25
4. アンケート結果に対する学科報告書	26

はじめに

福山大学は、次の6つを教育目標として掲げ、この目標を達成するべく、日々、教育の改革と改善に取り組んでいる。

福山大学教育目標

- 1) 真理の探究と道理の実践
- 2) 豊かな品性と強い意志の涵養
- 3) 生命と自然の尊重
- 4) 個性の発揮と信頼に基づく人間関係の構築
- 5) 可能性への挑戦
- 6) 地域社会の発展への貢献

教育とは、学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、「何を教えたか？」ではなく、「学習者が、何ができるようになったか？」が問われる。通常、教育者は、教育の効果を試験の結果、すなわち学習成果として認識し把握している。この学習成果に対する価値判断をもとにして、教員は自己の教育の改善に取り組んでいる。

しかしながら、真に教育を改善するためには、学習者からの忌憚のないフィードバックを得ることは必要不可欠である。このため福山大学では、自己評価委員会が平成16年度に実施して以来、本学のすべての教員が少なくとも1年に1度、学生による授業評価を受けている。平成23年度より大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施している。

平成27年度も、大学教育センター教育開発部門が「学生による授業評価アンケート」を実施した。このアンケート調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

平成28年3月31日
大学教育センター
センター長 大塚 豊
教育開発部門
部門長 田村 豊

1. アンケート調査の目的

学生が主体的に学ぶ授業の展開を目指して、学生が授業をどのように受講し、授業に期待していることを教員が理解し、各教員の授業改善に資するために本アンケートを実施する。また、全学的な教育改革の成果を検討する貴重な資料とする。さらに、学生が自己評価し、自身の学習姿勢を点検して改善に役立てるために本アンケート調査を実施する。

2. アンケート調査の概要

(1) 実施期間

アンケート調査結果を学生にフィードバックする期間を確保するため、それぞれ第10回目～11回目の授業時間の一部を利用して実施した。

前期：平成26年6月11日（木）～24日（水）

後期：平成27年11月30日（月）～12月12日（土）

(2) 調査科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）1人当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針とした。調査を希望する教員については、2科目以上について調査対象とすることにした。全学で、前期184科目（受講者数延べ10,534名）、後期104科目（受講者数延べ7,055名）、通年で288科目（受講者数延べ17,589名）を対象に調査を行った。調査科目を p.3～p.8 に示した。

(3) アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、表面に自由記載欄、裏面に教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した（p.9の調査用紙を参照）。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

(4) 調査結果の集計

アンケート調査の集計作業を外部（リョービシステムズ㈱）に委託した。集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には5、強く否定する回答には1）を乗じ全回答数で除すことで、5段階評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、最高値は5.0、最低値は1.0、標準値は3.0となる。なお、質問3のみ「シラバスを読んでいない」という選択肢を増やし6段階評価とした。

(5) 学生へのフィードバック方法

前期および後期授業のそれぞれ最終回（15回目）および試験期間中にアンケート調査結果とその対応を学生にフィードバックした。方法は学科に一任した。

(6) アンケート実施後の教員による報告書提出

授業担当教員に集計結果返却後、1ヶ月以内に報告書(p.10の報告書書式を参照)を学科長に提出し、学科長は学科教員の報告書を取りまとめて大学教育センター長に提出した。

(7) アンケート実施後の学科による総括

年度末に前期および後期の調査結果を踏まえて学科単位で総括し、学科長から大学教育センター長に提出した。

平成 27 年度（前期）授業アンケート実施科目一覧

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済	経済	増澤 拓也	非常勤講師	ミクロ経済学	1220042F	水・金	4・5時限	112
経済	経済	入谷 純	教授	財政学I	1220102F	火	4時限	113
経済	経済	早川 達二	教授	日本経済論 I	1220160F	火	1時限	103
経済	経済	三川 敦	教授	経済数学 I (選択必修)	1220453F	火	2時限	5
経済	経済	三川 敦	教授	経済数学 I (選択)	1220454F	火	2時限	4
経済	経済	勝矢 倫生	非常勤講師	日本経済史 I	1220476F	金	2時限	83
経済	経済	李 森	教授	労働経済論 I	1220490F	月	2時限	29
経済	経済	井本 伸	非常勤講師	経済統計学 I	1220742F	火	2時限	49
経済	経済	上迫 明	准教授	企業法	1220940F	水	2時限	159
経済	経済	塚原 一郎義治	非常勤講師	計量経済学 I	1221020F	木	2時限	11
経済	経済	石丸 敬二	准教授	プログラミング基礎	1221130F	木	3時限	54
経済	経済	高阪 勇毅	講師	金融論 I / 金融システム	1221300F	水	3時限	120
経済	経済	大和証券	非常勤講師	証券市場論	1221350F	水	4時限	134
経済	経済	向井 昇	非常勤講師	生活設計・税基礎 I	1230332F	月	1時限	25
経済	経済	亀岡 章	非常勤講師	不動産・相続基礎 I	1230350F	火	3時限	33
経済	経済	佐藤 健次	非常勤講師	リスク管理・金融基礎 I	1230550F	水	4時限	8
経済	経済	幸田 洋子	非常勤講師	F P 実技応用 I	1230650F	木	3時限	36
経済	経済	宮本 賢作	非常勤講師	学校保健論	1240060F	月	2時限	43
経済	経済	中村 和裕	助教	現代スポーツ論 I	1240091F	火	4時限	70
経済	経済	藤本 倫史	助教	スポーツ社会学	1240370F	水	2時限	20
経済	経済	田邊 一洋	非常勤講師	スポーツとメディア I	1240840F	木	3時限	52
経済	経済	三川 敦	教授	経済数学	1260371F	火	2時限	47
経済	経済	三川 敦	教授	経済数学	1260374F	水	2時限	36
経済	経済	金丸 純二	教授	保健体育科教育法Ⅲ	9002840F	木	2時限	11
経済	経済	蓮尾 陽平	非常勤講師	社会・公民科教育法	9002910F	木	2時限	3
経済	国際経済	鍋島 正次郎	准教授	地域経済論(地域経済論 I)	1120140F	金	1時限	52
経済	国際経済	富士 彰夫	教授	アメリカ経済論 I	1125471F	木	1時限	104
経済	国際経済	足立 浩一	准教授	マーケティング論 I	1125680F	火	3時限	121
経済	国際経済	藤本 浩由	講師	マクロ経済学	1220063F	水	3時限	46
経済	国際経済	内海 香	非常勤講師	関税法	1260190F	木	2時限	42
経済	国際経済	尾田 温俊	教授	EU 経済論 I	1260270F	水	3時限	24
経済	国際経済	平山 亮	非常勤講師	特講Ⅲ(アジア直接投資論 I)	1260930F	木	2時限	4
経済	国際経済	馬 成三	教授	中国ビジネス研究	1260990F	水	1時限	18
経済	国際経済	中村 博	准教授	英語マスター I	1261280F	月	2時限	29
経済	国際経済	古島 義雄	教授	国際経済学 I	7200225F	水	2時限	41
経済	税務会計	中沢 孝夫	教授	経営学 I	1210254F	木	2時限	127
経済	税務会計	古川 環子	非常勤講師	民法B 1	1220920F	火	2時限	60
経済	税務会計	小林 正和	准教授	販売管理論 I	1230690F	火	4時限	65
経済	税務会計	井手吉 成佳	講師	工業簿記	1250041F	木	2時限	11
経済	税務会計	荒木 純子	非常勤講師	簿記論演習Ⅱ	1250070F	水	2時限	14
経済	税務会計	許 費	教授	財務諸表論	1250090F	火	1時限	17
経済	税務会計	石井 孝和	講師	会計学総論 I	1250190F	木	2時限	77
経済	税務会計	泉 潤慈	教授	税法概論 1, 税法概論 I	1250250F	月	3時限	27
経済	税務会計	池下 泰宏	非常勤講師	税務会計 I	1250310F	金	2時限	8
経済	税務会計	張 楓	准教授	経営組織論 I	1250420F	水	3時限	25
経済	税務会計	大東和 武司	非常勤講師	国際経営論 I	1260330F	月	1時限	14
経済	税務会計	日野 恵美子	准教授	経営戦略論	1260590F	水	1時限	4
人間文化	心理	赤澤 淳子	教授	発達心理学	0140801F	水	2時限	76
人間文化	心理	日下部 典子	教授	カウンセリング論	2320010F	水	3時限	46
人間文化	心理	橋本 優花里	教授	認知心理学	2320160F	水	2時限	46
人間文化	心理	野寺 綾	准教授	教育心理学概論	2320180F	火	1時限	55
人間文化	心理	平 伸二	教授	生理心理学	2320220F	水	1時限	51
人間文化	人間文化	清水 洋子	講師	中国語 I	0190610F	木	3時限	35
人間文化	人間文化	米崎 里	准教授	英語発展 I	1930119F	木	3時限	52
人間文化	人間文化	重迫 隆司	教授	現代芸術とサブカルチャー論	2120380F	金	3時限	48
人間文化	人間文化	脇 忠幸	講師	日本語学概論 1	2120410F	火	4時限	50
人間文化	人間文化	山川 廣司	教授	ヨーロッパの歴史と文化 1	2120570F	木	3時限	34
人間文化	人間文化	柳川 真由美	講師	日本近世の政治と文化 1	2120800F	水	2時限	29
人間文化	人間文化	原 千史	教授	ヨーロッパの社会と思想 1	2120881F	月	2時限	14
人間文化	人間文化	米崎 里	准教授	英語科教科教育法Ⅱ	9002770F	金	4時限	2

人間文化	メディア情報文化	阿部 純	講師	メディア文化論	0131100F	月	2時限	69
人間文化	メディア情報文化	内垣戸 貴之	准教授	基礎情報処理 I	1116022F	金	2時限	22
人間文化	メディア情報文化	竹下 美保	非常勤講師	マスメディア論	2123121F	火曜隔週	2・3時限	24
人間文化	メディア情報文化	大塚 勉	非常勤講師	プリントメディア制作(基礎)	2123230F	木	1時限	25
人間文化	メディア情報文化	田中 聡登	非常勤講師	広告制作	2123460F	月	4時限	18
人間文化	メディア情報文化	藤田 敏恵	非常勤講師	アナウンス	2123490F	金	3時限	18
工	建築	田辺 和康	教授	地学	30102929F	水	1時限	40
工	建築	都祭 弘幸	教授	構造力学Ⅱ	3220141F	木	2時限	5
工	建築	都祭 弘幸	教授	静定力学Ⅱ	3220142F	木	2時限	78
工	建築	都祭 弘幸	教授	構造系技術Ⅱ A	3221850F	金	2時限	17
工	建築	藤原 美樹	准教授	デザイン論	3310010F	水	1時限	75
工	建築	酒井 要	助教	CAD 演習 I	3320160F	金	3・4時限	67
工	建築	佐藤 圭一	教授	日本建築史	3320380F	月	2時限	32
工	建築	伊澤 康一	講師	居住設備	3320450F	金	4時限	36
工	建築	山田 明	講師	建築材料	3320840F	木	3時限	68
工	建築	宮地 功	教授	建築積算	3321800F	水	2時限	37
工	情報工	尾関 孝史	教授	情報工学入門	3420940F	火	3時限	45
工	情報工	新谷 敏朗	准教授	データ構造とアルゴリズム I	3421240F	月	2時限	43
工	情報工	占部 逸正	教授	論理回路	3421361F	金	3時限	45
工	情報工	宮崎 光二	准教授	Java入門	3421450F	月	2時限	32
工	機械システム工	関根 康史	准教授	機械設計製図基礎	3520010F	月	4時限	29
工	機械システム工	霧崎 展	教授	メカニカルデザイン	3520760F	火	3時限	32
工	機械システム工	小林 正明	講師	計測工学	3520791F	水	1時限	21
工	機械システム工	坂口 勝次	教授	熱力学	3521260F	月	2時限	37
工	機械システム工	中東 潤	准教授	デジタルデザイン	3521290F	水	4時限	31
工	スマートシステム	宮内 克之	教授	地域防災基礎	0156021F	水	5時限	91
工	スマートシステム	関田 隆一	准教授	物理学 I	3010101F	水	1時限	55
工	スマートシステム	香川 直己	教授	回路理論Ⅱ	3120070F	火	2時限	27
工	スマートシステム	沖 俊任	准教授	CAD I	3120890F	月	2時限	13
工	スマートシステム	菅原 聡	准教授	デジタルシステム	3121221F	金	2時限	16
工	スマートシステム	来山 弘通	非常勤講師	ものづくり加工法	3121260F	月	2時限	25
工	スマートシステム	田中 聡	准教授	プログラミング基礎	3121300F	月	1時限	22
工	スマートシステム	三宅 雅保	教授	電子デバイス	3121340F	金	2時限	18
工	スマートシステム	伍賀 正典	准教授	ロボット制御	3121380F	水	1時限	14
工	スマートシステム	田中 聡	准教授	スマートシステム基礎実験	3121620F	月	3・4時限	15
工	スマートシステム	田中 聡	准教授	電子通信・ロボットシステム実験	3121621F	月	3・4時限	3
工	スマートシステム	宮内 克之	教授	防災工学	3220610F	火	1時限	89
工	スマートシステム	仲嶋 一	教授	電気工学概論	332052F	木	3時限	35
生命工	生物工	広岡 和文	准教授	化学Ⅱ	3010193F	月・金	1・2時限	58
生命工	生物工	山本 覚	教授	代謝生化学	401024F	火	2時限	47
生命工	生物工	藤田 泰太郎	教授	微生物育種学	4120080F	水	2時限	39
生命工	生物工	太田 雅也	教授	構造生化学	4120100F	月・金	1・2時限	57
生命工	生物工	原口 博行	教授	植物栄養生理学	4120870F	木	2時限	44
生命工	生物工	秦野 琢之	教授	バイオマス・資源リサイクル	4120890F	火	1時限	44
生命工	生物工	山口 泰典	教授	動物機能利用学	4121510F	木	1時限	42
生命工	生物工	佐藤 淳	准教授	環境バイオ製品	4121520F	木	2時限	43
生命工	生命栄養科	山本 英二	教授	基礎化学	4210010F	木	1時限	42
生命工	生命栄養科	赤木 収二	教授	健康管理概論	4210060F	水	1時限	44
生命工	生命栄養科	小山 峰志	非常勤講師	社会福祉概論	4210131F	水	1時限	38
生命工	生命栄養科	柴田 寛子	助教	フードコーディネータ論	4220900F	火	2時限	53
生命工	生命栄養科	高橋 知佐子	准教授	応用栄養学	4220933F	水	2時限	35
生命工	海洋生物科	渡辺 伸一	准教授	生物統計学	4010010F	月	2時限	68
生命工	海洋生物科	三輪 泰彦	教授	バイオテクノロジー入門	4310040F	金	1時限	42
生命工	海洋生物科	河原 栄二郎	教授	魚類生理学	4320770F	金	1時限	157
生命工	海洋生物科	有瀬 真人	教授	水産学概論	4320840F	火	2時限	114
生命工	海洋生物科	高村 克美	教授	動物組織学	4321180F	水	1時限	91
生命工	海洋生物科	倉掛 昌裕	教授	食品衛生学	4321410F	金	2時限	100
生命工	海洋生物科	北口 博隆	准教授	沿岸域の環境と生物	4321700F	水	2時限	93
薬	薬	前原 昭次	助教	実感する化学	110650F	木	1時限	35
薬	薬	大西 正俊	講師	薬学英語 I	5110070F	木	3時限	165
薬	薬	石津 隆	教授	薬学の基礎となる化学 A	5110280F	木	2時限	154
薬	薬	松岡 浩史	講師	遺伝子を操作する	5120520F	火	2時限	144

薬	薬	杉原 成美	教授	疾病の予防	5120640F	金	4時限	91
薬	薬	井上 敦子	教授	消化器系疾患と薬物治療	5120850F	火	1時限	144
薬	薬	吉富 博則	教授	薬物動態の解析Ⅱ	5120860F	木	1時限	92
薬	薬	江藤 精二	教授	悪性腫瘍と薬物治療	5120880F	月	1時限	92
薬	薬	長崎 信浩	教授	テーラーメイド薬物治療	5120940F	金	1時限	92
薬	薬	片山 博和	教授	医薬品情報	5121140F	木	2時限	142
薬	薬	数野 博	非常勤講師	ファーマシューティカルケア演習	5121210F	水	3・4時限	11
薬	薬	田中 哲郎	教授	医薬品をつくる特講	5121260F	火	1時限	88
薬	薬	秦 季之	准教授	物質の構造Ⅰ	5130030F	火	2時限	162
薬	薬	井上 裕文	教授	化学物質の検出と定量	5130040F	金	2時限	159
薬	薬	上敷領 淳	准教授	生体分子の立体構造	5130050F	月	2時限	159
薬	薬	藤岡 晴人	教授	官能基と構造解析	5130250F	水	1時限	160
薬	薬	田淵 紀彦	准教授	生体防御Ⅰ	5130510F	月	2時限	144
薬	薬	赤崎 健司	教授	生活環境と健康	5130630F	金	3時限	140
薬	薬	坂根 洋	講師	社会・集団と健康	5130650F	水	2時限	93
薬	薬	田村 豊	教授	薬の作用と生体内運命	5130710F	火	1時限	163
薬	薬	金尾 義治	教授	薬物の臓器への到達と消失	5130760F	金	2時限	139
薬	薬	富田 久夫	教授	製剤材料の性質	5130770F	木	3時限	142
薬	薬	渡邊 正知	准教授	眼・耳鼻咽喉・皮膚疾患と薬物治療	5130870F	水	1時限	93
薬	薬	小嶋 英二郎	教授	臨床検査	5130880F	木	2時限	90
薬	薬	江藤 精二	教授	患者情報	5130890F	火	1時限	89
薬	薬	村上 信行	客員教授	社会保障制度と薬剤経済-1	5131140F-1	月	2時限	94
薬	薬	五郎丸 剛	准教授	社会保障制度と薬剤経済-2	5131140F-2	月	2時限	94
大学教育センター		小野 太幹	准教授	数理科学	0110251F	火	3時限	50
大学教育センター		山口 昌宏	特命講師	数理科学	0110254F	木	4時限	44
大学教育センター		地主 弘幸	准教授	物理の世界	0110451F	水	3時限	54
大学教育センター		湯浅 清治	非常勤講師	自然地理(1)	0111300F	木	4時限	162
大学教育センター		田中 宏和	非常勤講師	憲法/憲法(1)	0120151F	金	1時限	80
大学教育センター		溝淵 裕	非常勤講師	憲法	0120154F	金	1時限	58
大学教育センター		大塚 豊	教授	教育原理	0121503F	金	4時限	73
大学教育センター		斎藤 拓海	非常勤講師	日本史(1)	0130103F	水	3時限	76
大学教育センター		丹藤 浩二	客員教授	歴史と人間(1)	0130350F	金	2時限	57
大学教育センター		上村 嘉子	非常勤講師	哲学(1)	0140100F	金	2時限	43
大学教育センター		上村 崇	非常勤講師	倫理学(1)	0140400F	火	4時限	98
大学教育センター		金川 洋臣	非常勤講師	書道	0150102F	火	3時限	29
大学教育センター		渋谷 清	非常勤講師	絵画	0150200F	火	4時限	22
大学教育センター		藤本 明成	非常勤講師	陶芸	0150304F	水	4時限	28
大学教育センター		神野 靖子	非常勤講師	音楽	0150402F	木	2時限	16
大学教育センター		大村 浩	非常勤講師	柔道(1)	0150900F	水	4時限	3
大学教育センター		菅波 真吾	非常勤講師	剣道	0151110F	金	2時限	7
大学教育センター		山本 賢太郎	非常勤講師	囲碁から学ぶ人間学	0151750F	火	4時限	72
大学教育センター		前田 吉広	助教	キャリアデザイン2	0160211F	木	5時限	48
大学教育センター		岡 晃弘	教授	ドイツ語(Ⅰ)	0190418F	金	1時限	93
大学教育センター		石井 成人	非常勤講師	フランス語(Ⅰ)	0190511F	火	3時限	60
大学教育センター		赤松 頌也	非常勤講師	フランス語(Ⅱ)	0190512F	火	3時限	40
大学教育センター		劉 国彬	非常勤講師	中国語(Ⅰ)	0190612F	水	3時限	67
大学教育センター		呉 丹紅	非常勤講師	中国語(Ⅱ)	0190616F	木	4時限	13
大学教育センター		宮田 朋恵	非常勤講師	日本語表現法	1307303F	月	3時限	36
大学教育センター		谷川 充美	非常勤講師	日本語表現法	1307317F	月	3時限	26
大学教育センター		竹盛 浩二	講師	日本語表現法	1307324F	金	4時限	51
大学教育センター		出木 良輔	非常勤講師	日本語表現法	1307326F	月	3時限	25
大学教育センター		本渡 葵	非常勤講師	日本語表現法	1307329F	木	3時限	17
大学教育センター		森岡 悦子	非常勤講師	英語(Ⅰ)	1902103F	金	2時限	53
大学教育センター		山内 優佳	非常勤講師	英語(Ⅱ)	1902107F	水	2時限	30
大学教育センター		池田 幸恵	非常勤講師	英語(Ⅲ)	1902109F	木	2時限	44
大学教育センター		Tang Warren	助教	英語(Ⅳ)	1902120F	木	2時限	39
大学教育センター		若松 正晃	講師	英語発展Ⅰ	1930107F	木	3時限	31
大学教育センター		高垣 裕子	非常勤講師	英語発展Ⅱ	1930110F	水	3時限	57
大学教育センター		西田 正	非常勤講師	英語発展(Ⅲ)	1930117F	金	3時限	35
大学教育センター		新井 純美	非常勤講師	英語発展(Ⅳ)	1930120F	金	4時限	32
大学教育センター		末藤 敏久	非常勤講師	中国文化入門	2110080F	木	4時限	18
共同利用センター		瀬島 紀夫	講師	情報処理(Ⅰ)	1116009F	火	3時限	54
共同利用センター		片桐 重和	助教	実用ソフトウェア	3421290F	金	2時限	40
国際センター		趙 建紅	准教授	日本語(Ⅰ)	0192561F	火	3時限	14
国際センター		趙 建紅	准教授	1級受験日本語Ⅰ	8000811F	月	2時限	20

平成 27 年度（後期）授業アンケート実施科目一覧

学部	学科	教員名	職名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済	経済	宮田 朋恵	非常勤講師	国語表現法Ⅱ	1210021F	水	2時限	9
経済	経済	筒本 和広	教授	情報処理技法	1210446F	金	2時限	29
経済	経済	平田 宏二	教授	地方財政論Ⅱ	1220380F	水	2時限	20
経済	経済	野村証券	非常勤講師	資本市場論	1230290F	水	4時限	175
経済	経済	磯崎 紀夫	非常勤講師	不動産・相続応用Ⅱ	1230360F	火	4時限	16
経済	経済	吉田 卓史	准教授	スポーツ理論Ⅱ	1240050F	火	3時限	36
経済	経済	新谷 士朗	非常勤講師	スポーツ実技Ⅱ	1240870F	金	4時限	11
経済	経済	岩田 祐二	非常勤講師	スポーツ救急技法	1241050F	木	2時限	42
経済	国際経済	中川 洋一	非常勤講師	国際協力論Ⅱ	1126340F	月	4時限	12
経済	国際経済	高羅 ひとみ	非常勤講師	開発経済学	1260040F	火	3時限	39
経済	税務会計	鳥谷部 茂	非常勤講師	市民生活と法	0120552F	金	3時限	66
経済	税務会計	伊藤 祐一	教授	情報処理技法	1210441F	月	1時限	34
経済	税務会計	金 鉉善	非常勤講師	民法Ⅱ(教職)	1220540F	金	3時限	92
経済	税務会計	餅川 正雄	非常勤講師	商業科教育法Ⅰ(教職)	9003100F	夏季休業中	集中	2
人間文化	心理	青野 篤子	教授	ジェンダーの心理学	0140730F	金	3時限	79
人間文化	心理	山崎 理央	准教授	パーソナリティと適応	2310070F	火	2時限	56
人間文化	心理	金平 希	助教	障害者心理学	2320040F	夏季休業中	集中	48
人間文化	心理	川入 潤子	講師	応用行動分析学	2320650F	木	2時限	60
人間文化	人間文化	青木 美保	教授	日本語表現法2	2110211F	水	2時限	47
人間文化	人間文化	山東 資子	講師	英語表現法2	2110550F	月	4時限	14
人間文化	メディア情報文化	三宅 正太郎	教授	メディア情報文化学演習	2118012F	木	2時限	22
人間文化	メディア情報文化	安田 暁	准教授	デザイン基礎	2123180F	火	3時限	22
人間文化	メディア情報文化	村上 博郁	非常勤講師	地域メディア論	2123400F	月	4時限	11
人間文化	メディア情報文化	松田 教道	非常勤講師	コンピュータミュージック	2123720F	水	3時限	22
人間文化	メディア情報文化	中嶋 健明	教授	3DCG	2123780F-1	木	4・5時限	12
人間文化	メディア情報文化	田中 始男	教授	基礎情報処理Ⅱ	2210063F	金	2時限	21
人間文化	メディア情報文化	渡辺 浩司	准教授	マルチメディア論	2220430F	火	1時限	30
工	建築	藤原 美樹	准教授	福祉住環境	3010390F	水	1時限	70
工	建築	山田 明	講師	静力学Ⅰ	3220052F	金	2時限	102
工	建築	酒井 要	助教	情報処理	3310110F	木	1時限	68
工	建築	大島 秀明	教授	建築計画Ⅱ	3320110F	火	4時限	55
工	建築	佐々木 伸子	准教授	住宅計画	3321260F	火	2時限	68
工	情報工	樽谷 昭彦	非常勤講師	コンピュータグラフィックス	3420380F	火	2時限	35
工	情報工	金子 邦彦	教授	データベースシステム	3420491F	金	2時限	41
工	情報工	池岡 宏	講師	プログラミング入門	3420950F	月	2時限	43
工	情報工	中道 上	准教授	ソフトウェア工学	3421160F	月	4時限	39
工	情報工	山之上 卓	教授	暗号とセキュリティ	3421510F	金	3時限	31
工	情報工	服部 進	教授	コンピュータアーキテクチャ	3421670F	木	3時限	38
工	機械システム工	真鍋 圭司	教授	材料力学Ⅱ	3520230F	金	1時限	24
工	機械システム工	木村 純社	教授	システム制御入門	3520240F	火	4時限	35
工	機械システム工	内田 博志	教授	環境自動車工学	3520513F	金	2時限	19
工	機械システム工	野西 利次	教授	強度設計学	3520630F	月	2時限	32
工	スマートシステム	宮内 克之	教授	地域防災応用	0156031F	水	5時限	90
工	スマートシステム	香川 直己	教授	回路理論Ⅰ	3120040F	火	1時限	30
工	スマートシステム	伍賀 正典	准教授	ロボットビジョン	3121410F	水	1時限	15
工	スマートシステム	三谷 康夫	教授	音声認識・音声合成	3121430F	水	2時限	20
工	スマートシステム	関田 隆一	准教授	プロジェクトマネジメント	3121590F	火	2時限	20
工	スマートシステム	横井 一仁	客員教授	スマートシステム概論	3121600F	夏季休業中	集中	14
工	スマートシステム	沖 俊任	准教授	スマートシステム基礎実験	3121620F	月	4・5時限	15
工	スマートシステム	沖 俊任	准教授	電子通信・ロボットシステム実験	3121621F	月	4・5時限	3
生命工	生物工	岩本 博行	教授	食品化学	4010270F	月	1時限	33
生命工	生物工	池田 達哉	客員教授	植物分子育種	4120190F	土	1・2時限	49
生命工	生物工	松崎 浩明	教授	遺伝子工学	4120200F	木	2時限	40
生命工	生物工	久富 泰資	教授	基礎微生物学	4120480F	金	2時限	58
生命工	生物工	吉崎 隆之	助教	醱酵生産・醸造学	4120850F	月	2時限	45
生命工	生物工	今井 俊治	客員教授	植物栽培技術	4120950F	水	3時限	39
生命工	生命栄養科	井ノ内 直良	教授	食品材料学	4210190F	月	2時限	50
生命工	生命栄養科	菊田 安至	教授	公衆衛生学	4220421F	金	1時限	49
生命工	生命栄養科	木村 安美	教授	公衆栄養学	4220941F	木	2時限	32
生命工	生命栄養科	村上 泰子	准教授	臨床栄養学Ⅰ	4220961F	金	2時限	32

生命工	生命栄養科	久保田 みどり	准教授	栄養カウンセリング論	4220990F	水	1時限	30
生命工	生命栄養科	久保田 みどり	准教授	栄養カウンセリング論	4220991F	水	2時限	30
生命工	生命栄養科	石井 香代子	准教授	給食マネジメントⅠ	4221611F	水	1時限	32
生命工	生命栄養科	石崎 由美子	教授	環境スポーツ栄養学	4221641F	月	2時限	32
生命工	海洋生物科	高田 浩二	客員教授	水族館論	4320722F	夏季休業中	集中	52
生命工	海洋生物科	宮崎 信之	客員教授	海産哺乳類学	4320730F	夏季休業中	集中	83
生命工	海洋生物科	阪本 憲司	准教授	魚介類の育種	4321291F	火	1時限	99
生命工	海洋生物科	満谷 淳	教授	沿岸環境の保全と再生	4321332F	火	2時限	80
生命工	海洋生物科	臼井 洋輔	非常勤講師	博物館概論	4321372F	夏季休業中	集中	42
生命工	海洋生物科	水上 雅晴	講師	水生生物の生態と環境	4321391F	水	1時限	99
生命工	海洋生物科	伏見 浩	教授	栽培漁業と魚介類の養殖	4321531F	火	1時限	18
生命工	海洋生物科	山岸 幸正	講師	生物多様性とその保全	4321631F	水	2時限	98
生命工	海洋生物科	南 卓志	教授	水産資源の生態	4321671F	月	1時限	84
薬	薬	田中 哲郎	教授	薬学英语Ⅱ	5110080F	水	2時限	159
薬	薬	赤崎 健司	教授	生命体の基本単位としての細胞	5120430F	木	2時限	160
薬	薬	森田 哲生	教授	細胞を構成する分子	5120500F	月	1時限	150
薬	薬	宇野 勝次	教授	生体防御Ⅱ	5120540F	木	1時限	146
薬	薬	瀬尾 誠	講師	食品衛生	5120610F	月	1時限	140
薬	薬	宇野 勝次	教授	微生物とたたかう	5120750F	水	1時限	146
薬	薬	菅 奈奈美	非常勤講師	医療コミュニケーション	5120970F	金	2時限	90
薬	薬	鶴田 泰人	教授	生体中の金属・分子を解析する方法	5130080F	水	2時限	170
薬	薬	前原 昭次	助教	天然物化学	5130280F	木	1時限	163
薬	薬	道原 明宏	准教授	生命情報を担う遺伝子	5130452F	金	2時限	160
薬	薬	本屋敷 敏雄	准教授	生体エネルギー	5130460F	金	1時限	165
薬	薬	田淵 紀彦	准教授	小さな生き物たち	5130500F	金	3時限	156
薬	薬	西尾 廣昭	教授	血液・造血器系疾患と薬物治療	5130730F	木	4時限	145
薬	薬	佐藤 英治	教授	調剤	5130750F	火	2時限	144
薬	薬	田中 哲郎	教授	剤形をつくる	5130780F-1	月	2時限	146
薬	薬	片山 博和	教授	剤形をつくる	5130780F-2	月	2時限	146
薬	薬	渡邊 正知	准教授	神経精神疾患と薬物治療	5130810F	金	2時限	142
薬	薬	堤 広之	講師	法制度	5131120F	木	3時限	142
薬	薬	町支 臣成	教授	基礎有機化学Ⅱ	5140220F	月	1時限	153
薬	薬	渡邊 正知	准教授	人体の成り立ちと機能Ⅱ	5140410F	木	1時限	153
薬	薬	田淵 紀彦	准教授	病原体としての微生物	5140430F	火	1時限	152
薬	薬	岡村 信幸	教授	漢方薬物治療	5140720F	水	2時限	150
大学教育	大学教育センター	吉崎 一	非常勤講師	社会学	0121700F	金	5時限	45
大学教育	大学教育センター	平下 義記	非常勤講師	日本史(2)	0130203F	水	2・3時限	91
大学教育	大学教育センター	柴原 直樹	非常勤講師	日本史(2)	0130205F	金	3時限	81
大学教育	大学教育センター	津田 将行	講師	キャリアデザインⅡ	0160214F	金	5時限	9
大学教育	大学教育センター	Lowes Jason	講師	英会話	1931014F	金	3時限	56
大学教育	大学教育センター	枚 貴愛	非常勤講師	教職概論	9003801F	水	3時限	53
共同利用	共同利用センター	鶴崎 健一	准教授	暮らしとバイオ	0112203F	水	2時限	125
社会連携	社会連携センター	中村 雅樹	教授	暮らしと物づくり	0112002F	木	5時限	177

平成 27 年度 授業評価アンケート用紙（表）

学生による授業評価と自己点検アンケート

福山大学では、授業評価およびあなた自身の学習に対する自己点検アンケートを定期的に行っています。学生諸君の授業についての意識や要望などを早く把握して、この調査結果を授業の改善に役立てます。アンケートの回答内容は成績評価に一切関係しません。真剣で率直な意見を是非聞かせてください。

福山大学 大学教育センター

【記入についての注意】

回答にあたっては黒色の鉛筆、ボールペン、インクなどで明瞭に記入してください。ただし、ボールペンやインクの場合、訂正ができません。

【自由記述欄】

この科目の授業について、裏面のアンケートに回答した後で、特に伝えたい意見や要望があれば、自由に記入してください。

調査年月日、曜日・時限、授業科目名、授業担当者、およびあなたの学部名、学科名、学年を記入してください。

調査年月日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

曜日・時限： _____ 曜日 _____ 時限

授業科目名： _____

授業担当者： _____

あなたの学部名： _____ 学部

あなたの学科名： _____ 学科

あなたの学年： _____ 年生

平成 27 年度 授業評価アンケート用紙（裏）

学生による授業評価と自己点検アンケート



この科目の授業に関する次の各質問の回答として最も適切な選択肢の に、しを はっきりと記入してください。

【質問1】 教員の授業の進め方は適切ですか？（板書、パワーポイントあるいは配布プリント、テキストなどを含めて）

適切である ほぼ適切である どちらとも言えない
 やや不適切である 不適切である

【質問2】 教員の話し方は明瞭ですか？（聞き取りやすいですか？）

聞き取りやすい ほぼ聞き取りやすい どちらとも言えない
 やや聞き取りにくい 大変聞き取りにくい

【質問3】 授業はシラバス通りに行われていますか？

行われている ほぼ行われている どちらとも言えない
 やや異なっている 全く異なっている シラバスを逸れている

【質問4】 教員は、1 講義時間（90分）の授業時間を確保していますか？

守っている ほぼ守っている どちらとも言えない
 やや守っていない 守っていない

【質問5】 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いませんか？

思う やや思う どちらとも言えない あまり思わない 全く思わない

【質問6】 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えますか？（質問したことがある方のみ答えてください）

誠意をもって答える ほぼ誠意をもって答える どちらとも言えない
 やや誠意が感じられない 誠意が感じられない

【質問7】 この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？

大いに感じる やや感じる どちらとも言えない
 あまり感じない 全く感じない

【質問8】 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。

満足 ほぼ満足 どちらとも言えない やや不満である 不満である

【質問9】 この授業に関して、1 回の講義あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか。最もあてはまる数字に○印をつけてください。

3 時間以上 2～3 時間未満 1～2 時間未満
 30分～1 時間未満 30分未満

【質問10】 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？

全くない ほとんどない どちらとも言えない
 しばしばある 毎度ある

【質問11】 授業には特別な事情（公欠出席、急引きなど）を除き、出席していますか？

全出席 ほぼ出席 ときどき欠席する
 やや欠席が多い 欠席が大量多い

【質問12】 この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？

大いに深まっている やや深まっている どちらとも言えない
 あまり深まっていない 全く深まっていない

【質問13】 あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや資料の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？

積極的に行っている かなり行っている 行おうと思っている
 あまり行っていない 全く行っていない

【質問14】 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？

学級が十分進んでおり、質問の必要がない しばしば質問する ときどき質問する
 質問はあるが、学級に質問できないため、質問すべきことがあつたらぬ 質問すべきことがあつたらぬ

【質問15】 この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いませんか？

大いに思う やや思う どちらとも言えない
 あまり思わない 全く思わない

【質問16】 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。

十分に成果はあがっている 少し成果はあがっている どちらとも言えない
 あまり成果はあがっていない 全く成果はあがっていない

この授業について、特に意見があれば裏面の自由記述欄に記入してください。

平成27年度前・後期 授業評価アンケート結果に対する報告書

担当教員	氏 名	所属学部・学科	
		工学部	学科
講義名		科目分類 (不要な方を消去する)	受講者数
		共通教育科目	専門科目
			名

お手数ですがこの科目のアンケート集計結果を各質問毎に記載してください

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8
進め方	話し方	計画性	授業時間	講義の工夫	質問への誠意	難易度の適切性	満足度
質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16
授業の準備	集中力	出席状況	知識の深まり	受講の工夫	質問への積極性	意欲の高まり	学修の成果

◆アンケート結果の学生へのフィードバック方法

--

◆この講義に対する学生の評価結果について (アンケートの質問1～質問8が該当します)

○高く評価された事項

--

○改善を求められている事項

--

○今後の授業改善の計画

--

◆この講義を受講した学生の自己点検結果について (アンケートの質問9～質問16が該当します)

○学修成果という点でこの結果をどのように考えますか

--

○学生の学修成果を望ましい方向に進展させる方策はありますか

--

3. 調査結果

「学生による授業評価アンケート」の集計結果は各科目、学科、学部、全学の単位で集計しており、それぞれの責任者に報告している。本報告書に全てを掲載すると膨大な内容となるため、学部、および全学の単位について掲載することにした。

(1) アンケート実施状況について

このアンケート調査は授業時間の一部を利用して、配布した設問用紙に回答後に回収しており、比較的高い回収率を得ることができた。平成 27 年度前期(表 1-1)、後期(表 1-2)、および通年(表 1-3)のアンケート回答率は、全学でそれぞれ前期が 85.5%、後期が 84.6%、通年で 83.2%となり、通年で 80%を超えていた。学部間で比較すると薬学部の回答率が通年で 91.4%と高い回答率を示したが、経済学部と共同利用センターでは回答率が 80%を下回った。すべての学部、センターで 80%を上回る回答率を目指し、教育改革に当たってより全体の学生の回答を反映できるように改善を図りたい。

表 1-1 学生による授業評価アンケート（前期）＜回答率＞

	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
受講者数	10,534	2,290	714	1,193	1,251	3,171	1,787	94	34
回答者数	9,003	1,707	618	994	1,119	2,958	1,487	88	32
回答率	85.5%	74.5%	86.6%	83.3%	89.4%	93.3%	83.2%	93.6%	94.1%

表 1-2 学生による授業評価アンケート（後期）＜回答率＞

	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
受講者数	7,055	583	444	907	1,206	3,278	335	125	177
回答者数	5,872	383	351	750	959	2,937	273	70	149
回答率	83.2%	65.7%	79.1%	82.7%	79.5%	89.6%	81.5%	56.0%	84.2%

表 1-3 学生による授業評価アンケート（通年）＜回答率＞

	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
受講者数	17,589	2,873	1,158	2,100	2,457	6,449	2,122	219	34	177
回答者数	14,875	2,090	969	1,744	2,078	5,895	1,760	158	32	149
回答率	84.6%	72.7%	83.7%	83.0%	84.6%	91.4%	82.9%	72.1%	94.1%	84.2%

(2) 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）

①授業の進め方について

教員の授業の進め方はすべての学部で高く評価されている。全学の評価平均は通年で 4.30 であり高い評価であった（表 2-1、2-2、2-3）。このことから、教員の授業の進め方については、概ね適切に実施されていると評価することができる。

表2-1 学生による授業評価アンケート（前期）＜授業の進め方について＞

		回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
【質問1】 進行 教員の授業 の進め方は 適切です か？	適切である	5	4,468	863	400	423	577	1,368	764	44	29
	ほぼ適切である	4	3,238	627	178	400	390	1,088	516	36	3
	どちらともいえない	3	949	167	25	123	114	352	162	6	0
	やや不適切である	2	248	33	7	35	27	110	35	1	0
	不適切である	1	92	14	6	13	10	38	10	1	0
	平均点		4.31	4.35	4.56	4.19	4.34	4.23	4.34	4.38	4.91

表2-2 学生による授業評価アンケート（後期）＜授業の進め方について＞

		回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
【質問1】 進行 教員の授業 の進め方は 適切です か？	適切である	5	2,809	203	179	396	536	1,215	155	45	80
	ほぼ適切である	4	2,251	136	132	260	341	1,231	82	14	55
	どちらともいえない	3	588	31	32	69	69	341	30	3	13
	やや不適切である	2	143	6	6	17	8	95	3	7	1
	不適切である	1	80	7	2	8	5	55	2	1	0
	平均点		4.29	4.36	4.37	4.36	4.45	4.18	4.42	4.36	4.44

表2-3 学生による授業評価アンケート（通年）＜授業の進め方について＞

		回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
【質問1】 進行 教員の授業 の進め方は 適切です か？	適切である	5	7,277	1,066	579	819	1,113	2,583	919	89	29	80
	ほぼ適切である	4	5,489	763	310	660	731	2,319	598	50	3	55
	どちらともいえない	3	1,537	198	57	192	183	693	192	9	0	13
	やや不適切である	2	391	39	13	52	35	205	38	8	0	1
	不適切である	1	172	21	8	21	15	93	12	2	0	0
	平均点		4.30	4.35	4.49	4.26	4.39	4.20	4.35	4.37	4.91	4.44

② 話し方について

教員の話し方はすべての学部で4.0以上であり高く評価されている（表3-1、3-2、3-3）。
全学の平均評価は通年で4.26と昨年と同値であった。

表3-1 学生による授業評価アンケート（前期）＜話し方について＞

		回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
【質問2】 話し方 教員の話し 方は明瞭 ですか？	聞き取りやすい	5	4532	850	447	392	577	1421	776	41	28
	ほぼ聞き取りやすい	4	3082	597	139	412	344	1079	474	33	4
	どちらともいえない	3	847	163	16	119	91	302	147	9	0
	やや聞き取りにくい	2	411	71	11	55	84	122	65	3	0
	大変聞き取りにくい	1	120	24	3	16	22	31	22	2	0
	平均点		4.28	4.28	4.65	4.12	4.23	4.26	4.29	4.23	4.88

表3-2 学生による授業評価アンケート（後期）〈話し方について〉

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	聞き取りやすい											
【質問2】 話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	2810	191	210	374	555	1218	149	46	67	
	ほぼ聞き取りやすい	4	2080	127	109	263	293	1141	75	16	56	
	どちらともいえない	3	653	35	20	72	71	399	32	4	20	
	やや聞き取りにくい	2	247	18	11	33	37	129	11	3	5	
	大変聞き取りにくい	1	81	12	1	8	3	49	6	1	1	
	平均点		4.24	4.22	4.47	4.28	4.42	4.14	4.28	4.47	4.23	

表3-3 学生による授業評価アンケート（通年）〈話し方について〉

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	聞き取りやすい											
【質問2】 話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	7,342	1,041	657	766	1,132	2,639	925	87	28	67
	ほぼ聞き取りやすい	4	5,162	724	248	675	637	2,220	549	49	4	56
	どちらともいえない	3	1,500	198	36	191	162	701	179	13	0	20
	やや聞き取りにくい	2	658	89	22	88	121	251	76	6	0	5
	大変聞き取りにくい	1	201	36	4	24	25	80	28	3	0	1
	平均点		4.26	4.27	4.58	4.19	4.31	4.20	4.29	4.34	4.88	4.23

③ 授業の計画性について

授業の計画性はすべての学部で高く評価されており、本学における授業がシラバスに基づいて実施されていると評価できる（表4-1、4-2、4-3）。しかしながら、シラバスを読んでいるという項目に26.5%（昨年は27.9%）も回答があることは（表4-3）、問題点として指摘される。初回授業時に、シラバスを用いた授業説明を行うなどの対応策が必要である。

表4-1 学生による授業評価アンケート（前期）〈計画性について〉

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	行われている										
【質問3】 計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	3652	771	327	387	408	1137	568	27	27
	ほぼ行われている	4	2394	547	144	303	279	674	418	26	3
	どちらとも書えない	3	573	146	23	85	65	117	129	8	0
	やや異なっている	2	45	8	3	3	14	5	12	0	0
	全く異なっている	1	19	7	1	1	2	5	3	0	0
	シラバスを読んでいる	0	2308	224	119	214	351	1016	355	27	2
	平均点		4.44	4.40	4.59	4.38	4.40	4.51	4.36	4.31	4.90

表 4-2 学生による授業評価アンケート（後期）＜計画性について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	【質問 3】 計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	2300	174	149	341	401	1016	124	32
ほぼ行われている		4	1537	119	108	214	231	751	55	14	45
どちらとも取えない		3	371	30	30	36	56	181	23	6	9
やや異なっている		2	21	3	0	6	2	7	3	0	0
全く異なっている		1	16	2	0	3	0	10	0	0	1
シラバスを踏んでいない		0	1622	54	63	150	268	971	68	18	30
平均点			4.43	4.40	4.41	4.47	4.49	4.40	4.46	4.50	4.43

表 4-3 学生による授業評価アンケート（通年）＜計画性について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	【質問 3】 計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	5,952	945	476	728	809	2,153	692	59	27
ほぼ行われている		4	3,931	666	252	517	510	1,425	473	40	3	45
どちらとも取えない		3	944	176	53	121	121	298	152	14	0	9
やや異なっている		2	66	11	3	9	16	12	15	0	0	0
全く異なっている		1	35	9	1	4	2	15	3	0	0	1
シラバスを踏んでいない		0	3,930	278	182	364	619	1,987	423	45	2	30
平均点			4.44	4.40	4.53	4.42	4.45	4.46	4.38	4.40	4.90	4.43

④ 授業時間について

授業時間については、すべての学部・センターで通年の評価が 4.5 以上であり、学生から非常に高い評価をえている（表 5-1、5-2、5-3）。本学における授業は、開始時間と終了時間が厳密に守られ、90 分を確保していると高く評価することができる。

表 5-1 学生による授業評価アンケート（前期）＜時間について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	【質問 4】 時間 教員は、1 講義（90 分）の授業時間を確保していますか？	守っている	5	5864	997	453	610	748	1977	994	56
ほぼ守っている		4	2668	591	149	315	331	828	424	28	2
どちらとも取えない		3	330	80	7	47	21	118	54	2	1
やや守っていない		2	79	17	5	12	12	21	11	1	0
守っていない		1	47	15	4	9	5	9	4	1	0
平均点			4.58	4.49	4.69	4.52	4.62	4.61	4.61	4.56	4.88

表 5-2 学生による授業評価アンケート（後期）＜時間について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	【質問 4】 時間 教員は、1 講義（90 分）の授業時間を確保していますか？	守っている	5	3709	251	215	498	646	1765	196	52
ほぼ守っている		4	1794	113	106	204	258	978	65	12	58
どちらとも取えない		3	272	15	27	31	42	139	10	3	5
やや守っていない		2	53	1	3	7	6	32	2	2	0
守っていない		1	33	2	0	10	4	16	0	1	0
平均点			4.55	4.60	4.52	4.56	4.61	4.52	4.67	4.60	4.54

表5-3 学生による授業評価アンケート（通年）＜時間について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	回答	人数	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	
【質問4】 時間は、1講義（90分）の授業時間を確保していますか？	守っている	5	9,573	1,248	668	1,108	1,394	3,742	1,190	108	29	86
	ほぼ守っている	4	4,462	704	255	519	589	1,806	489	40	2	58
	どちらとも思えない	3	602	95	34	78	63	257	64	5	1	5
	やや守っていない	2	132	18	8	19	18	53	13	3	0	0
	守っていない	1	80	17	4	19	9	25	4	2	0	0
	平均点		4.57	4.51	4.63	4.54	4.61	4.56	4.62	4.58	4.88	4.54

⑤ 講義の工夫について

担当教員の講義の工夫については、全学では 4.12 と高い評価平均であるが、すべての設問項目の中では比較的低い評価であった（表 6-1、6-2、6-3）。講義の中でも、確認ストを取り入れる、DVD などを使用する、レフレクションペーパーなどを活用するなど、まだまだ改善の余地があると思われる。

表6-1 学生による授業評価アンケート（前期）＜講義の工夫について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	回答	人数	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
【質問5】 講義の工夫は、科目内容を理解しやすく工夫していると思えますか？	思う	5	3888	724	385	338	453	1245	685	30	28
	やや思う	4	2862	547	152	321	366	985	456	31	4
	どちらとも思えない	3	1680	346	60	236	215	541	260	22	0
	あまり思わない	2	412	70	15	76	59	132	56	4	0
	全く思わない	1	121	14	5	18	22	40	21	1	0
	平均点		4.11	4.12	4.45	3.89	4.05	4.11	4.17	3.97	4.88

表6-2 学生による授業評価アンケート（後期）＜講義の工夫について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	回答	人数	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
【質問5】 講義の工夫は、科目内容を理解しやすく工夫していると思えますか？	思う	5	2497	164	170	345	505	1043	159	36	75
	やや思う	4	1949	123	114	252	284	1042	67	19	48
	どちらとも思えない	3	1111	77	56	119	137	656	37	9	20
	あまり思わない	2	226	11	9	25	24	140	7	5	5
	全く思わない	1	74	5	2	9	6	49	2	0	1
	平均点		4.12	4.13	4.26	4.20	4.32	3.99	4.38	4.25	4.28

表 6-3 学生による授業評価アンケート（通年）＜講義の工夫について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	回答	件数										
【質問5】講義の工夫は、教員は、科目内容を理解しやすくするために工夫していると思いますか？	思う	5	6,385	888	555	683	958	2,288	844	66	28	75
	やや思う	4	4,811	670	266	573	650	2,027	523	50	4	48
	どちらとも思えない	3	2,791	423	116	355	352	1,197	297	31	0	20
	あまり思わない	2	638	81	24	101	83	272	63	9	0	5
	全く思わない	1	195	19	7	27	28	89	23	1	0	1
	平均点			4.12	4.12	4.38	4.03	4.17	4.05	4.20	4.09	4.88

⑥ 質問への誠意について

学生からの質問への誠意については、全学では 4.31 と高い評価平均であった（表 7-1、7-2、7-3）。出席表に書き込める質問への回答、オフィスタイムを利用しての回答など、教員は誠意をもって答えていると評価できる。但し、授業進行中や終了時の質問が少ないとの教員の指摘も見られた。

表 7-1 学生による授業評価アンケート（前期）＜質問への誠意について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	回答	件数									
【質問6】質問への誠意は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	3321	686	343	334	394	913	596	23	32
	ほぼ誠意をもって答える	4	1838	450	120	273	205	469	307	14	0
	どちらとも思えない	3	969	231	47	148	143	187	197	16	0
	やや誠意が感じられない	2	51	10	3	14	7	11	5	1	0
	誠意が感じられない	1	48	16	2	8	6	12	3	1	0
	平均点			4.34	4.28	4.55	4.17	4.29	4.42	4.34	4.04

表 7-2 学生による授業評価アンケート（後期）＜質問への誠意について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	回答	件数									
【質問6】質問への誠意は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	1866	143	156	277	373	734	115	22	46
	ほぼ誠意をもって答える	4	1197	115	89	168	161	552	55	23	34
	どちらとも思えない	3	658	63	49	103	91	281	38	7	26
	やや誠意が感じられない	2	43	3	3	7	4	21	4	1	0
	誠意が感じられない	1	50	7	2	6	3	27	3	1	1
	平均点			4.25	4.16	4.32	4.25	4.42	4.20	4.28	4.19

表7-3 学生による授業評価アンケート（通年）〈質問への誠意について〉

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター	
		【質問6】質問への誠意										
教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	5,187	829	499	611	767	1,647	711	45	32	46
	ほぼ誠意をもって答える	4	3,035	565	209	441	366	1,021	362	37	0	34
	どちらとも思えない	3	1,627	294	96	251	234	468	235	23	0	26
	やや誠意が感じられない	2	94	13	6	21	11	32	9	2	0	0
	誠意が感じられない	1	98	23	4	14	9	39	6	2	0	1
平均点		4.31	4.26	4.47	4.21	4.35	4.31	4.33	4.11	5.00	4.16	

⑦ 難易度の適切性について

難易度の適切性については、設問項目の中では低い評価であり、全学の評価平均は 4.10 であった（表 8-1、8-2、8-3）。理系、文系学部間の差はほとんど見られないが、大学教育センターに属する科目の平均が低くなっている。この傾向は昨年と同様であり、大学教育センターに属する科目は、広い範囲の分野に対し学部を超えて受講生がいるため、多様な学生を意識した難易度設定の必要があると考えられる。

表8-1 学生による授業評価アンケート（前期）〈難易度の適切性について〉

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	
		【質問7】難易の適切性									
この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	3111	622	262	299	351	1101	424	27	25
	やや感じる	4	4081	740	264	462	550	1381	633	46	5
	どちらとも思えない	3	1324	246	61	170	150	380	304	11	2
	あまり感じない	2	303	56	19	35	45	69	78	1	0
	全く感じない	1	170	36	11	25	22	26	47	3	0
	平均点		4.07	4.09	4.21	3.98	4.04	4.17	3.88	4.06	4.72

表8-2 学生による授業評価アンケート（後期）〈難易度の適切性について〉

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター	
		【質問7】難易の適切性									
この科目はやりがいや手応え、また将来に役立つと感じるものですか？	大いに感じる	5	2096	157	119	306	368	987	93	19	47
	やや感じる	4	2747	158	165	341	421	1463	110	31	58
	どちらとも思えない	3	804	49	54	82	135	381	55	15	33
	あまり感じない	2	142	12	11	13	24	66	9	1	6
	全く感じない	1	81	6	2	8	11	39	6	4	5
	平均点		4.13	4.17	4.11	4.23	4.16	4.12	4.01	3.86	3.91

表 8-3 学生による授業評価アンケート（通年）＜難易度の適切性について＞

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター	
【質問7】 難易度の適切性 この科目はやりが いや手応え、また 将来に役立つと感 じるもので すか？	大いに感じる	5	5,207	779	381	605	719	2,088	517	46	25	47
	やや感じる	4	6,828	898	429	803	971	2,844	743	77	5	58
	どちらとも思えない	3	2,128	295	115	252	285	761	359	26	2	33
	あまり感じない	2	445	68	30	48	69	135	87	2	0	6
	全く感じない	1	251	42	13	33	33	65	53	7	0	5
	平均点		4.10	4.11	4.17	4.09	4.09	4.15	3.90	3.97	4.72	3.91

⑧ 講義の満足度について

講義に対する満足度は、授業評価 8 項目の中で最も低い評価であり、通年全学の評価平均は 3.94 であった（表 9-1、9-2、9-3）。評価は学部間に大きな差は認められない。満足度の評価が低いのは、講義内容の難易度の適切性と関係がある可能性が指摘される。評価平均ではなく個々の授業科目について詳細に解析することで相関性を見出すことが可能かもしれない。また、最も高い得点（5 点）となる「満足」に対する回答数が少ないことが平均値を下げる原因となっている。また、「満足度」は、学生が望む学習内容と提供される内容に食い違いがある場合にも低くなる。学習の目的や意義を十分に学生に説明することも満足度の改善につながると考えられる。

表 9-1 学生による授業評価アンケート（前期）＜講義の満足度について＞

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	
【質問8】 講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	2775	576	274	221	297	938	423	20	26
	ほぼ満足	4	3500	612	232	361	470	1193	591	36	5
	どちらとも思えない	3	2142	419	89	309	272	668	360	24	1
	やや不満である	2	398	67	17	65	53	110	80	6	0
	不満である	1	134	15	5	26	26	32	28	2	0
	平均点		3.94	3.99	4.22	3.70	3.86	3.98	3.88	3.75	4.78

表 9-2 学生による授業評価アンケート（後期）＜講義の満足度について＞

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター	
【質問8】 講義の満足度 この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。	満足	5	1766	126	114	250	341	755	107	20	53
	ほぼ満足	4	2345	142	143	303	412	1166	103	26	50
	どちらとも思えない	3	1386	90	70	162	173	779	53	17	42
	やや不満である	2	258	16	19	18	20	173	6	3	3
	不満である	1	84	5	2	15	3	53	4	2	0
	平均点		3.93	3.97	4.00	4.01	4.13	3.82	4.11	3.87	4.03

表 9-3 学生による授業評価アンケート（通年）＜講義の満足度について＞

回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター	
満足	5	4,541	702	388	471	638	1,693	530	40	26	53
ほぼ満足	4	5,845	754	375	664	882	2,359	694	62	5	50
どちらとも言いえない	3	3,528	509	159	471	445	1,447	413	41	1	42
やや不満である	2	656	83	36	83	73	283	86	9	0	3
不満である	1	218	20	7	41	29	85	32	4	0	0
平均点		3.94	3.98	4.14	3.83	3.98	3.90	3.91	3.80	4.78	4.03

(3) 調査結果の内容（学生の自己点検）

① 授業の準備について

講義に臨むにあたり、授業の予習や復習をする学生の割合は極めて低く、全学通年で57.3%の学生が30分未満と回答している（表10-1、10-2、10-3）。予習と復習の習慣を身につけさせることによって、単位の実質化を図る方策の早急な実施が求められる。宿題を課す、あるいは授業開始時に前回授業内容の確認試験を行うなどの手法を導入し、予習や復習の習慣づけを行っていることから始めることが必要である。また、e-Learningコンテンツの充実化なども予習・復習のサポートとして重要であると考えられる。

表 10-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜授業の準備について＞

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	
【質問 9】 授業の準備 この授業に 関して、1 回の講義あ たり平均し てどのくら い予習・復 習、あるい は関連の学 習をしまし たか。	3時間以上	5	472	155	33	33	17	179	44	3	8
	2～3時間未満	4	476	119	39	37	35	200	36	1	9
	1～2時間未満	3	1024	170	76	108	109	449	100	4	8
	30分～1時間未満	2	1899	272	141	201	241	751	271	17	5
	30分未満	1	5099	985	325	611	716	1367	1030	63	2
	平均点		1.81	1.93	1.88	1.67	1.57	2.01	1.51	1.45	3.50

表 10-2 学生による自己点検アンケート（後期）＜授業の準備について＞

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター	
【質問 9】 授業の準備 この授業に 関して、1 回の講義あ たり平均し てどのくら い予習・復 習、あるい は関連の学 習をしまし たか。	3時間以上	5	255	27	19	26	37	119	13	2	12
	2～3時間未満	4	315	29	25	19	19	200	13	5	5
	1～2時間未満	3	694	34	56	53	67	458	20	3	3
	30分～1時間未満	2	1202	58	64	161	145	724	39	7	4
	30分未満	1	3397	234	187	490	689	1433	188	52	124
	平均点		1.78	1.84	1.93	1.57	1.51	1.93	1.62	1.52	1.49

表 10-3 学生による自己点検アンケート（通年）＜授業の準備について＞

【質問 9】 授業の準備 この授業に 関して、1 回の講義あ たり平均し てどのくら い予習・復 習、あるい は関連の学 習をしまし たか。	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	3時間以上	5	727	182	52	59	54	298	57	5	8	12
2~3時間未満	4	791	148	64	56	54	400	49	6	9	5	
1~2時間未満	3	1,718	204	132	161	176	907	120	7	8	3	
30分~1時間未満	2	3,101	330	205	362	386	1,475	310	24	5	4	
30分未満	1	8,496	1,219	512	1,101	1,405	2,800	1,218	115	2	124	
平均点		1.80	1.92	1.90	1.63	1.54	1.97	1.53	1.48	3.50	1.49	

② 集中力について

授業への集中力については、いずれの学部においても標準とする 3.0 を上回っている（表 11-1、11-2、11-3）。但し、設問が「私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることがある」と複数かつ 90 分間の単位では起きる可能性の高いものが含まれているのも、平均点が低い原因と考えられる。学生が主体的に参加する授業方法の導入が求められる。また、平成 27 年度から導入された Cerezo を利用した双方向による授業展開も活用することが肝要である。

表 11-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜集中力について＞

【質問 10】 集中力	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	全くない	5	2223	376	126	165	203	992	325	17	19
ほとんどない	4	3285	629	218	331	418	1148	505	26	10	
どちらとも書えない	3	1687	337	118	222	225	441	316	27	1	
しばしばある	2	1365	266	128	210	206	283	256	15	1	
毎回ある	1	409	90	25	64	65	81	81	3	0	
平均点		3.62	3.55	3.47	3.33	3.44	3.91	3.50	3.44	4.52	

表 11-2 学生による自己点検アンケート（後期）＜集中力について＞

【質問 10】 集中力	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	全くない	5	1433	76	50	139	176	862	89	10	31
ほとんどない	4	2090	141	99	212	337	1161	72	28	40	
どちらとも書えない	3	1153	84	105	202	215	445	60	14	28	
しばしばある	2	927	66	67	167	177	371	39	12	28	
毎回ある	1	265	16	30	29	54	97	12	6	21	
平均点		3.60	3.51	3.21	3.35	3.42	3.79	3.69	3.34	3.22	

表 11-3 学生による自己点検アンケート（通年）＜集中力について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	回答	人数										
【質問 10】 集中力 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	3,656	452	176	304	379	1,854	414	27	19	31
	ほとんどない	4	5,375	770	317	543	755	2,309	577	54	10	40
	どちらとも言いにくい	3	2,840	421	223	424	440	886	376	41	1	28
	しばしばある	2	2,292	332	195	377	383	654	295	27	1	28
	毎回ある	1	674	106	55	93	119	178	93	9	0	21
	平均点		3.61	3.54	3.38	3.34	3.43	3.85	3.53	3.40	4.52	3.22

③ 出席状況について

授業への出席状況は、本調査の設問項目の中でもっとも高く、全学通年では「全出席」と「ほぼ」出席を併せると、全体の 91.9%である（表 12-1、12-2、12-3）。これは、本学の学生が真面目に授業に出席していることを示している。また、出席確認を厳密に行って3回欠席した学生の担任へ連絡を入れるという教務委員会の方針、授業の3分の1を超えて欠席した場合には定期試験を受験できないという本学の学則に拠るところが大きい。

表 12-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜出席状況について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	回答	人数									
【質問 11】 出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	6237	887	401	586	707	2519	1042	68	27
	ほぼ出席	4	2034	607	160	268	285	374	325	11	4
	ときどき欠席する	3	479	138	40	89	75	49	80	8	0
	欠席が多い	2	171	51	10	34	37	14	23	1	1
	欠席が欠席多い	1	61	18	6	17	11	1	8	0	0
	平均点		4.58	4.35	4.52	4.38	4.47	4.82	4.60	4.66	4.78

表 12-2 学生による自己点検アンケート（前期）＜出席状況について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	回答	人数									
【質問 11】 出席状況 授業には特別な事情を除き、出席していますか？	全出席	5	4045	174	186	466	572	2358	148	38	103
	ほぼ出席	4	1326	142	106	189	269	474	93	18	35
	ときどき欠席する	3	329	46	41	55	81	69	21	9	7
	欠席が多い	2	120	13	13	26	30	26	5	4	3
	欠席が欠席多い	1	49	8	5	14	7	9	6	0	0
	平均点		4.57	4.20	4.30	4.42	4.43	4.75	4.36	4.30	4.61

表 12-3 学生による自己点検アンケート（通年）＜出席状況について＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	回答	人数										
【質問11】出席状況	全出席	5	10,282	1,061	587	1,052	1,279	4,877	1,190	106	27	103
	ほぼ出席	4	3,360	749	266	457	554	848	418	29	4	35
授業には特別な事情を除き、出席していますか？	ときどき欠席する	3	808	184	81	144	156	118	101	17	0	7
	欠席が多い	2	291	64	23	60	67	40	28	5	1	3
	欠席が欠席多い	1	110	26	11	31	18	10	14	0	0	0
	平均点		4.58	4.32	4.44	4.40	4.45	4.79	4.57	4.50	4.78	4.61

④ 知識の深まりについて

受講により知識の深まりを感じている学生の割合は比較的高く、全学通年で評価平均は4.08であった（表 13-1、13-2、13-3）。平均値 3.0 に比べ十分に知識の深まりを感じていると評価できる。

表 13-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜知識の深まりについて＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	回答	人数									
【質問12】知識の深まり	大いに深まっている	5	2716	529	246	251	321	939	381	25	24
	やや深まっている	4	4748	870	303	550	614	1574	779	51	7
この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	どちらとも書えない	3	1122	218	52	133	126	338	244	10	1
	あまり深まっていない	2	253	51	10	40	31	71	50	0	0
	全く深まっていない	1	135	35	5	19	21	27	26	2	0
	平均点		4.08	4.06	4.26	3.98	4.06	4.13	3.97	4.10	4.72

表 13-2 学生による自己点検アンケート（後期）＜知識の深まりについて＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	回答	人数									
【質問12】知識の深まり	大いに深まっている	5	1782	127	107	231	323	838	93	16	47
	やや深まっている	4	3156	177	195	417	505	1616	138	41	67
この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	どちらとも書えない	3	680	56	35	70	99	355	29	9	27
	あまり深まっていない	2	145	13	8	18	24	75	5	0	2
	全く深まっていない	1	105	10	6	14	8	52	8	3	4
	平均点		4.08	4.04	4.11	4.11	4.16	4.06	4.11	3.97	4.03

表 13-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜知識の深まりについて＞

	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	回答	人数										
【質問12】知識の深まり	大いに深まっている	5	4,498	656	353	482	644	1,777	474	41	24	47
	やや深まっている	4	7,904	1,047	498	967	1,119	3,190	917	92	7	67
この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？	どちらとも書えない	3	1,802	274	87	203	225	693	273	19	1	27
	あまり深まっていない	2	398	64	18	58	55	146	55	0	0	2
	全く深まっていない	1	240	45	11	33	29	79	34	5	0	4
	平均点		4.08	4.06	4.20	4.04	4.11	4.09	3.99	4.04	4.72	4.03

⑤ 受講時の工夫について

受講するにあたり、個々の学生が自分に適した工夫をしている割合は低く、全学通年の評価平均は 3.51 であった（表 14-1、14-2、14-3）。「積極的に行っている」と「かなり行っている」を合わせると 52%、「行おうと思っている」、「あまり行っていない」、「全く行っていない」を合わせると 48%で、行っている学生と行っていない学生がほぼ半数ずつであった。個別回答では「行おうと思っている」という回答が最も多かった。これは、意欲を持ちながらも、どのようにすればよいのか困惑している状態と判断される。この状態の学生は学修方法を適切にアドバイスすることによって改善する可能性が高い。今後の教育改革における検討課題であり、Cerezo の活用や初年次教育に関する FD 活動も重要である。

表 14-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜受講の工夫について＞

【質問 13】 受講の工夫	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	積極的に行っている	5	2186	435	161	170	220	885	280	10	25
あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	かなり行っている	4	2369	495	164	243	293	821	330	17	6
	行おうと思っている	3	2838	457	164	333	406	917	531	29	1
	あまり行っていない	2	1123	212	89	182	138	244	239	19	0
	全く行っていない	1	454	99	40	61	60	81	102	11	0
平均点		3.53	3.56	3.51	3.28	3.43	3.74	3.30	2.95	4.75	

表 14-2 学生による自己点検アンケート（後期）＜受講の工夫について＞

【質問 13】 受講の工夫	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	積極的に行っている	5	1501	97	69	157	213	829	71	25	40
あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	かなり行っている	4	1638	100	91	195	272	871	59	24	26
	行おうと思っている	3	1688	97	95	240	283	855	80	10	28
	あまり行っていない	2	716	58	70	113	132	272	35	5	31
	全く行っていない	1	327	31	26	45	59	110	28	5	23
平均点		3.56	3.45	3.30	3.41	3.47	3.69	3.40	3.86	3.20	

表 14-3 学生による自己点検アンケート（通年）＜受講の工夫について＞

【質問 13】 受講の工夫	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	積極的に行っている	5	3,687	532	230	327	433	1,714	351	35	25	40
あなたは、自ら講義内容を理解するため、ノートや講話の聞き方などの工夫や配慮を行っていますか？	かなり行っている	4	4,007	595	255	438	565	1,692	389	41	6	26
	行おうと思っている	3	4,526	554	259	573	689	1,772	611	39	1	28
	あまり行っていない	2	1,839	270	159	295	270	516	274	24	0	31
	全く行っていない	1	781	130	66	106	119	191	130	16	0	23
平均点		3.54	3.54	3.44	3.34	3.44	3.72	3.32	3.35	4.75	3.20	

⑥ 質問への積極性について

通年全学で質問を行っている学生は 26.1%である。また、「質問はあるが、ほとんど質問していない」、「質問すべきことがみつからない」と回答する学生が 51.1%であった（表 14-1、14-2、14-3）。特に、「質問すべきことがみつからない」と回答した学生の中には、学力が不十分で「何を質問して良いか分からない」状況の学生も含まれていると考えられる。教員側から積極的な声掛けを行っていく必要がある。

表 15-1 学生による自己点検アンケート（前期）〈質問への積極性について〉

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	
【質問 14】 質問への積極性	-----	5	2076	431	153	197	235	639	385	17	19
	しばしば質問する	4	1179	317	105	153	95	342	158	4	5
授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	ときどき質問する	3	1278	211	139	154	149	362	238	17	8
	-----	2	3546	571	179	400	529	1241	579	47	0
	-----	1	852	168	41	85	103	330	123	2	0
	平均点		3.01	3.16	3.24	2.98	2.85	2.90	3.07	2.85	4.34

表 15-2 学生による自己点検アンケート（後期）〈質問への積極性について〉

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター	
【質問 14】 質問への積極性	-----	5	1285	97	84	189	240	522	71	21	61
	しばしば質問する	4	737	71	58	105	70	372	34	9	18
授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	ときどき質問する	3	662	44	62	90	74	340	42	6	4
	-----	2	2437	136	109	300	433	1305	98	23	33
	-----	1	705	35	38	66	139	357	28	10	32
	平均点		2.91	3.15	3.12	3.07	2.83	2.79	3.08	3.12	3.29

表 15-3 学生による自己点検アンケート（通年）〈質問への積極性について〉

	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター	
【質問 14】 質問への積極性	-----	5	3,361	528	237	386	475	1,161	456	38	19	61
	しばしば質問する	4	1,916	388	163	258	165	714	192	13	5	18
授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	ときどき質問する	3	1,940	255	201	244	223	702	280	23	8	4
	-----	2	5,983	707	288	700	962	2,546	677	70	0	33
	-----	1	1,557	203	79	151	242	687	151	12	0	32
	平均点		2.97	3.16	3.20	3.02	2.84	2.85	3.07	2.97	4.34	3.29

⑦ 学修への意欲の高まりについて

受講による学修意欲の高まりについては平均値 3.0 を上回り、評価平均値は全学通年で 3.84 であった。本学の授業が知的好奇心を喚起していることが示唆される。

表 16-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜意欲の高まりについて＞

【質問 15】意欲 の高まり	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	この科目 を受講し て、講義 内容を更 に詳しく 学びたい と思いま すか？	大いに思う	5	2196	445	198	186	223	819	285	16
やや思う		4	4049	753	265	427	546	1448	564	39	7
どちらとも思えない		3	1927	351	112	264	227	489	458	25	1
あまり思わない		2	536	89	29	69	84	152	108	5	0
全く思わない		1	252	59	10	41	33	43	63	3	0
平均点			3.83	3.85	4.00	3.66	3.76	3.97	3.61	3.68	4.72

表 16-2 学生による自己点検アンケート（後期）＜意欲の高まりについて＞

【質問 15】意欲 の高まり	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	この科目 を受講し て、講義 内容を更 に詳しく 学びたい と思いま すか？	大いに思う	5	1502	104	87	209	270	707	67	14
やや思う		4	2710	147	156	335	446	1434	114	26	52
どちらとも思えない		3	1196	86	83	158	185	569	67	18	30
あまり思わない		2	303	27	19	29	44	149	15	8	12
全く思わない		1	158	19	5	19	14	77	10	4	10
平均点			3.87	3.76	3.86	3.91	3.95	3.87	3.78	3.54	3.73

表 16-3 学生による自己点検アンケート（通年）＜意欲の高まりについて＞

【質問 15】意欲 の高まり	回答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	この科目 を受講し て、講義 内容を更 に詳しく 学びたい と思いま すか？	大いに思う	5	3,698	549	285	395	493	1,526	352	30	24
やや思う		4	6,759	900	421	762	992	2,882	678	65	7	52
どちらとも思えない		3	3,123	437	195	422	412	1,058	525	43	1	30
あまり思わない		2	839	116	48	98	128	301	123	13	0	12
全く思わない		1	410	78	15	60	47	120	73	7	0	10
平均点			3.84	3.83	3.95	3.77	3.85	3.92	3.64	3.62	4.72	3.73

⑧ 学習の成果について

学習の成果を問うこの設問に対して、全学通年で評価平均値が 3.92 であることは高く評価できる。しかしながら、「少し成果は上がっている」という回答が最も多く、もう一步の努力が学生および教員に求められるところである。

表 17-1 学生による自己点検アンケート（前期）＜学習の成果について＞

【質問16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター
	十分に成果が上がっている	5	2196	458	192	182	204	839	283	17
少し成果が上がっている	4	4639	851	319	496	622	1551	740	52	8
どちらとも書えない	3	1621	295	80	226	211	433	361	13	2
ほとんど成果が上がっていない	2	374	65	19	64	53	97	71	4	1
全く成果が上がっていない	1	149	33	6	26	28	29	25	2	0
平均点		3.93	3.96	4.09	3.75	3.82	4.04	3.80	3.89	4.53

表 17-2 学生による自己点検アンケート（後期）＜学習の成果について＞

【質問16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	社会連携センター
	十分に成果が上がっている	5	1353	102	67	187	232	627	80	12
少し成果が上がっている	4	3096	186	191	390	519	1570	130	43	67
どちらとも書えない	3	1100	74	75	137	176	553	51	8	26
ほとんど成果が上がっていない	2	204	15	10	23	20	118	8	4	6
全く成果が上がっていない	1	116	5	8	13	12	68	4	3	3
平均点		3.91	3.96	3.85	3.95	3.98	3.88	4.00	3.81	3.99

表 17-3 学生による自己点検アンケート（通年）＜学習の成果について＞

【質問16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	回答	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大学教育センター	共同利用センター	国際センター	社会連携センター
	十分に成果が上がっている	5	3,549	560	259	369	436	1,466	363	29	21
少し成果が上がっている	4	7,735	1,037	510	886	1,141	3,121	870	95	8	67
どちらとも書えない	3	2,721	369	155	363	387	986	412	21	2	26
ほとんど成果が上がっていない	2	578	80	29	87	73	215	79	8	1	6
全く成果が上がっていない	1	265	38	14	39	40	97	29	5	0	3
平均点		3.92	3.96	4.00	3.84	3.90	3.96	3.83	3.85	4.53	3.99

4. アンケート結果に対する学部・学科の報告書

本学では、学科単位でカリキュラムを編成しており、授業の点検・評価を学科単位で行うことが適切である。平成 27 年度にアンケート調査を実施した各学科の科目について、学科長に報告書の作成を依頼した。以下に各学科より提出された報告書を転載する。

<経済学部 経済学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、経済学科では前期 22 科目、後期 7 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。経済学科の教員の板書、話し方、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。しかしながら、極めて低い「授業の準備」を含む学生の自己点検の部分にはまだ改善の余地があると言える。

分析結果を踏まえた改善方策：経済学科の教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。全般的に評価が高くて、常に改善の余地が存在する。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：「授業の準備」の自己評価が顕著に低くなっている。

分析結果を踏まえた改善方策：全学的に取り組んでいる準備学習の充実への努力を継続する必要がある。また、学生に対してアルバイトの時間が過多にならないように指導して、準備学習のための時間とエネルギーを確保することが肝要である。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率

係数を乗し全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.2であり、平均を大きく上回っており、国際経済学科および非常勤教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。総合的満足度を問う設問8では4.05であり、標準値を上回っている。ただし、一部の教員は低得点に終わっている。

分析結果を踏まえた改善方策：一部教員についてノートをとらない学生がいるので、自筆ノートと交換に出席カードを認めるように工夫したこと。また、来年度からは私語対策に座席指定をする、図を途中まで書いた資料を配布するなどの工夫をしたいということである。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：集計結果については、経済学部標準値3.55を上回る3.63であった。最低点は授業の準備の2.06であり、30分未満が圧倒的に多い。最高点は出席状況であり、4.31である。出席指導、出席調査が確実に行われていることが窺える。

分析結果を踏まえた改善方策：シラバスの準備学習について、教員が毎回指摘し、それにより学生が習慣的に学習するという態度を身につくようにすることが重要である。全ての科目において準備学習をするということは学生にとっても負担が重すぎるであろうから、学科で重点科目を抽出してその科目についての自宅学習時間を増やすなどの工夫を提案したい。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックは前後期終了までに学科ごとに行った。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された

問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 学生参加を高めるためにセレッソの活用と言及

(2) 学生の学習参加を促すためのアクティブラーニング導入を提案

(3) 教員側への質問1~8と学生側への質問9~16の対応関係を明確化することで、自分自身が分析しやすくなるのではないか。(1、2、7は10、15)(6、14)(3、5は9、13)などが考えられる。1~8の点数が高い場合には対応する9~16の数値がどのようになっているかである。逆も考えられる。対応関係が不明瞭な場合には明確化する質問内容に変える。

【8】総括

今回のアンケート調査に限らず、国際経済学科教員の平均点は総じて高いと感じる。学生の学習意欲を引き出すことを強く意識しており、そのための工夫をしている教員が多いのがその理由と考えられる。今後はセレッソ活用事例を学科内で共有するなど改善したい。

<経済学部 税務会計学科>

平成27年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間

前期：平成27年6月11日(木)~6月24日(水)

後期：平成27年11月30日(月)~12月12日(土)

【2】対象科目の選定

本学に勤務する教員(非常勤講師を含む)当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、税務会計学科では前期11科目、後期2科目(3名)について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する8項目、学生自身の学習点検に関する8項目、合計16項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

調査結果は外部(リョービシステムズ株)に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与

えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目のいずれも学部平均に近い数値を示しており、総合的満足度を問う設問 8 では 4.02 と、学部平均より上回っていることが、本学科教員の授業技術は一定の水準を維持していると判断できる。

分析結果を踏まえた改善方策：一部教員についてももっとゆっくりと話してほしいという意見もあり、授業進行のペースを落としたり、パワーポイントを多く使用したり、専門用語の事前説明の回数を増やしたり、ゆっくりと話すなどをして学生の理解度を高めていく。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：質問 10 の「集中力」と 12 の「知識の深まり」、13 の「受講の工夫」が学部平均よりやや下回っており、講義環境の維持などに力を入れる必要があると感じられる。とくに講義中の私語が多いことは多くの教員に指摘されている。

分析結果を踏まえた改善方策：回答率は 86% で学部ではダントツに高いことから、学生による授業への関心が極めて高いことがうかがえる。しかしながら、学習意欲の向上が最も重要課題である。事前予習を促し、多様な講義方法を試行錯誤しながら、私語を厳禁するなど徹底すること。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 92% であった。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- ・ワイアレスマイクがあればいいという意見が非常勤講師より出されている。

【8】総括

今回のアンケート調査では、基本的に学科の実態を表す結果が得られたと考えている。今後、学生の学習意欲の向上を図るための教員努力とそれをサポートする講義環境・設備の整備が一層必要であると考えられる。

<人間文化学部 心理学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、心理学科では前期 5 科目、後期 8 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 8 項目のうちの 6 項目は、教員の授業技術を問う設問（話し方、計画性、時間の遵守、講義の工夫、質問への誠意）で構成されている。各項目とも、全 9 つの授業の平均評定値が 4.40 以上であったことから、本学科の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。また、難度の適切性および講義の満足度についても全 9 つの授業の平均評定値が 4.00 以上と、授業技術等に較べて低い値であるものの、標準値を上回るものであった。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。一部教員からは、アクティブラーニングを実施したことで前年度の評価より低まった、予習復習等や質問にLMS（Cerezo）を利用することに学生が難しさを感じていたようだという意見が報告された。報告書に示された教員の意見は相互に有益であると考えられるため、報告書に基づいて授業改善のためのFDを行うことも一つの案だろう。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：学生の自己点検項目 8 項目のうち、出席状況、知識の深まり、学習の成果については、いずれも全 9 つの授業の平均評定値が 4.00 以上であったことから、標準値を上回っていた。しかしながら、意欲の高まりについては、集中力、受講の工夫、質問への積極性、意欲の高まりについては、全 9 つの授業の平均評定値が 3.00 台となっており、学生自身の評価は低いものとなった。さらに、授業の準備については全 9 つの授業の平均評定値が 2.14 と低くなった。

分析結果を踏まえた改善方策：授業の準備については、全学においても評定値が低い項目である。授業担当者は、予習復習を課すなどして学生が授業準備をスムーズに行えるよう工夫をしているが、さらに改善の余地があると考えられる。上述のように、LMS の利用は課題によってその長短が異なるものの、小テストなどの出題には向いているとする意見もあることから、LMS の特性に合わせた活用方法について検討していく必要がある。また、学生が自身の成長を感じることができるよう工夫も必要だろう。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義時間中に当該授業科目担当教員が行った。その詳細は提出された報告書に記載されている。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 小テストでの Cerezo の活用は有効である
- (2) Cerezo を通じて質問を受け付ける方法は、学生になじまない

(3) Cerezo を通じて課題（翌週のディスカッションのための資料づくり）を受け付ける方法は、学生になじまない

(4) グループ学習において、グループの作成には一定の配慮や工夫が必要である

【8】総括

今回のアンケート調査では、本学科の教員の授業技術の高さが示された。その一方で、学生が自身の成長をあまり感じられていない側面も浮き彫りになったため、何らかの工夫が必要であろう。また本学では、近年、LMS が導入され、その活用が求められているが、今回の報告書より、課題や授業内容あった活用方法を検討する必要性が明らかになった。

<人間文化学部 人間文化学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
 後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員が担当する 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、人間文化学科では前期 8 科目、後期 2 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ(株)）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗時じ全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について
評価結果の分析

以下、各項目の、前期学科平均/後期学科平均[前期全学平均]の数値である。授業進め方 4.48/4.31[4.31] (分布 5~3.30)、話し方 4.60/4.43[4.28] (分布 5~3.80)、計画性 4.56/4.17[4.44] (分布 5~3.83)、授業時間 4.69/4.57[4.58] (分布 5~4.38)、講義の工夫 4.34/4.23[4.11] (分布 5~2.87)、質問への誠意 4.56/4.31[4.34] (分布 5~3.97)、難易の適切性 4.06/4.09[4.07] (分布 5~2.73)、満足度 4.13/3.89[3.94] (分布 4.72~2.97)である。全学平均とほぼ同じ数値である難易の適切性を除いて全ての項目で、全学平均を上回っている。しかし、分布に関しては 教員間で平均値の幅が大きくなっている。

分析結果を踏まえた改善方策

本学科の教員の授業実施については、大きな問題はない。日ごろの教育実践が受講者に好意的に受け止められている。今後ともこの努力を惜しむことなく継続していくことが必要である。全教員に全員のデータを提供することにより、各自参考にしつつ、シラバスチェックの結果も踏まえ、学科全体で授業改善案を引き続き議論し続けて行く。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析

以下、各項目の、前期学科平均/後期学科平均[前期全学平均]の数値である。授業の準備 1.72/2.03[1.81] (分布 4.33~1.53)、集中力 3.55/2.74[3.64] (分布 5~2.53)、出席状況 4.52/4.23[4.58] (分布 5~3.85)、知識の深まり 4.16/3.97[4.08] (分布 4.67~3.27)、受講の工夫 3.48/3.29[3.53] (分布 4.67~3.13)、質問への積極性 3.25/2.86[3.01] (分布 3.67~2.67)、意欲の高まり 3.93/3.66[3.83] (分布 4.67~3.00)、学修の成果 3.95/3.71[3.93] (分布 4.33~3.17) である。全ての項目において全学平均と同等かやや低い数値となっている。

分析結果を踏まえた改善方策

高い評価を得ている授業評価と比べて学生の自己評価が低すぎると思われる。自分の趣味を発表する授業も多い中で、好きな事をすることも重要な学修であることをしっかり伝え、学生に自信を持ってもらうことが必要である。

【教員へのフィードバックについて】

学生のアンケート結果を全学科教員に公表し、全教員がアンケート報告書を作成した。

【学生へのフィードバックについて】

全教員が授業中にアンケート結果の概要を説明し、改善点を学生と話し合った。

【学科教員からの提案、意見】

特記事項なし。

【アンケート項目の変更、追加、削除について】

特になし。

【アンケート時期と対象科目について】

・実施時期が早すぎるために、授業全体の学生評価になっていない。半期の授業修了の近くに行う授業内容（目標到達度確認でもあるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答や自分の言葉で完成させるレポート等）がアンケートに反映されないことになる。

・全教員が授業によってその進め方に様々な工夫を行っているので、各教員一科目のみのアンケートでは実態がわからないため、アンケートの対象をすべての担当科目に広げるべきである。

【総括】

評価の高い授業評価と評価の低い自己点検アンケートからは、学生にしっかりと自信をつけさせることが必要であると実感される。レポートやプレゼンテーションで身に付き、得たはずの力をもっと自覚させるべきである。学生に力がついていることを教員は実感しているのだから。

<人間文化学部 メディア情報文化学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、メディア情報文化学科では前期 7 科目、後期 6 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5点満点で評価した。強く否定する回答にも係数1を与えているため、標準値は3.5となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.41であり、総合的には授業技術と講義内容は妥当な水準となっている。総合的満足度を問う設問8は4.19であり、授業技術等に較べて多少低い値であるが妥当な水準と考えられる。ただし、教員間の差は大きく、3.61～4.94となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：学科の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、授業間で差は大きくなっている。授業技術について研修を行うなどの対策が必要と考えられる。このような対策によって総合的な満足度は更に向上すると考えられる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：生自身の学習点検に関する8項目の平均値は3.47であった。学生自身が自戒を込めて真摯に質問1から質問8よりも低めに回答した結果とも考えられる。ただし、授業の準備については1.66と非常に低い数値となっており、準備学修が不十分であると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業である。まずは、非常に低い数値となっている授業の準備について、事前学習の方法等を具体的に指示し、実施状況を定期的に確認するなどして、学習する習慣付けを行うことから始める必要がある。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義中または定期試験実施時、または関連科目の講義中に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 講義の満足度調査は、別に行い、全授業計画の終了時点としてよいのではないか。
- (2) 該当なし
- (3) 該当なし

【8】 総 括

授業評価アンケートでは概ね高い評価を得ており、点検を怠らず現状を継続することが望ましいといえる。ただし、評価に大きな幅があることには注意する必要がある。学生の授業の準備について、適切に誘導する方法の検討し、改善していくことが課題であるとわかった。

<工学部 スマートシステム学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
 後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、スマートシステム学科では前期 1 3 科目、後期 7 科目について調査を行った。なお、一部が非常勤講師の担当による前期集中科目であるスマートシステム概論については申請をしていたが手違いにより実施できていない。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与

えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は前後期合わせて 4.23 であり、これは工学部平均の 4.19 を上回っており、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。しかし、総合的満足度を問う設問 8 では 3.85 と、標準値をやや上回るものの、授業技術等に較べて低い値であった。この原因は、「学生の自己点検」の結果に表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。なかでも、時間については標準値は大きく超えているものの、学部平均を下回っており、特に実験における時間超過に対する考え方を改める必要がある。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：集計結果については、工学部平均の 2.73 を超えているが、標準値 3.5 を大きく下回る 2.84 であった。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、本学学生の資質と気質が反映していると推定している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、PBL や SGD 等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。また、補習教育などの充実も重要であるが、これらの制度を活用する意欲を培うことは至難の業ともいえる。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。学生に対するフィードバックは各期終了までに科目ごとに行った。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回までに、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。科目によっては、講義最終回以降に Cerezo を通じて再度授業アンケートを実施し、詳細な意見聴取をしている。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）や、教室会議における振り返

りにより提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) Cerezo を用いた時間外での Web 調査はできないか。試行の結果、時間が取れるためか自由記述が多くあり、学生の不安や不満の観点がよく判り、授業改善のポイントが明確となった。

【8】総括

今回のアンケート調査では、本学科における授業の実施と学成果に実態を表す結果が得られたと考えている。今後は示唆される問題点解決に向けた改善を求めたい。特に、後期の回答率（出席率）が著しく低かった。この点については改善したい。

<工学部 建築学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、建築学科では前期 10 科目（8 人）、後期 5 科目（5 人）について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は前期が4.15、後期が4.42であり、標準値を大きく上回っており、特に後期は評価が高い。項目別に見ると、「時間と計画性」については前期、後期ともに評価が高い。後期の各7項目はすべて高い評価であった。しかし、前期の「授業の工夫」については3.86と標準値をやや上回る程度で改善の余地がある。また、総合的満足度を問う設問8では後期が4.09と高かったが、前期は3.66と標準値をわずかに上回る程度であり、標準値を下回る科目が2科目、ほぼ標準値の科目が1科目あり、そのために平均値が低くなったものと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術については、標準以上の評価結果であるが、今後も今回の評価結果を踏まえ授業改善を試みる予定である。特に満足度の評価については、学生の受講前のモチベーションや学力など複合的な影響も考えられ、学科内で情報交換しながら授業改善を行う必要がある。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：集計結果については、前期(3.39)は標準値を下回り、後期(3.55)は標準値をやや上回る程度であった。項目別に見ると、前期、後期ともに、「授業の準備」の評価値が1.67, 1.52と著しく低く、授業の学習時間は1時間以下で30分前後と予測され、演習の場合は時間外の課題製作作業が必要とされるが、座学の場合の課題提示や予習復習に向けての工夫を今後検討する予定である。次に評価値が低い項目は、前期後期ともに「質問への積極性」であり(評価値は2.97, 3.12)、具体的には「ときどき質問をする(したいと思う)」と推測される。

分析結果を踏まえた改善方策：「授業の準備」に対する改善方策は、テキストを使用しない授業科目、時間内に完結する授業構成の科目等もあり、今後は、テキストの使用、予習復習の課題の提示等や、中間テストの実施、事前学習の成績評価への組込や、学生側に復習や関連学習を促すこと等を検討する。「質問への積極性」に対する改善方策は、学生側の自主性に期待したいが、教員側の授業の工夫として、質問の時間を設けることや質問しやすい雰囲気をつくること等を検討したい。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果を情報開示しフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックはそれぞれの学期終了までに各授業担当教員にて行った。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回までに、当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 講義室が狭くいつも満席で A3 のプリントが書きづらい環境であることが学生より聞かれた。

(2) Cerezo を活用し、講義資料がどこでも復習できるようにする工夫をしたが、アクセスする学生はほとんどいなかった。

【8】 総 括

前期、後期ともに学部平均とほぼ同程度の評価値となっている。回答率（出席率）は、必修科目、選択科目による差はあるが、学部平均が前期は 85.3%（昨年 85.1%）、後期が 87.3%（昨年 80.9%）と向上し、昨年度から欠席、遅刻の扱いについての学科統一基準をもとに出欠管理を実施しているが、その成果が出始めていると評価する。今回の評価結果を科目別に見ると、数式や数値計算等を扱う力学系の科目の評価値がやや低く、昨年同様に文系入試も導入している当学科としての今後の課題である。また、今回の調査対象科目は、製図等の実習系の科目が少ないために、今回の結果だけでは学科全体の授業内容に対する評価とは言い難いので、次年度以降は自主的調査を含めて演習科目に対する授業評価を検討してみたい。

<工学部 情報工学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
 後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、情報工学科では前期 4 科目、後期 6 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は 4.22 であり、工学部平均の 4.27 より、若干下回るが、標準値 3.5 を大きく上回っており、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。また、総合的満足度を問う設問 8 では 3.85 と、工学部平均 3.89 より若干下回る。標準値 3.5 を上回るものの、授業技術等に較べて低い値であった。この原因は、昨年度同様「学生の自己点検の結果に表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準値以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。なお、一部の教員の講義の満足度に、標準値 3.5 を下回る項目が見られるため、教室会議等でカリキュラムの再確認を含めて原因を究明する。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：授業の準備に関する 7 項目は、学生の授業への取り組み方の設問と授業への意欲を問う設問で構成されている。集計結果については、工学部平均の 3.37 を若干下回る 3.29 であった。また、学修の成果でも、工学部平均 3.87 に対して、学科平均は 3.76 とやや下回っている。

分析結果を踏まえた改善方策：特に、学生の「授業への準備」の項目が劣っている。この項目はなかなか向上していない。次年度は、セレッソ等を活用し、受動的な講義に留まらず、準備学修の成果を学生が発表をするようなアクティブラーニングを増やしていくことで改善したい。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、速報として、各教員に伝えたほか、教室会議で全学科教員全員

の結果を公表し、改善方法を検討した。なお、アンケート結果に関する報告書は非常勤講師も含めて全員提出している。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは残りの講義内にて当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

（1）ほとんどの項目の平均点が、学部・学科とも後期の方がよかった。原因究明のため、全学的な情報もほしい。

（2）定期試験終了後が望ましい。また、対象科目も全科目が望ましい。

（3）本格的なフィードバックは次年度で行う。

【8】 総括

今回のアンケート調査でも、昨年度に引き続き「授業の準備」の結果が大変悪かった。シラバスに準備学修を明記しているのも、その目的を学生に確実に指示することで、学修の成果の向上につなげたい。

以上

＜工学部機械 システム工学科＞

平成27年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】 実施期間 前期：平成27年6月11日（木）～6月24日（水）
後期：平成27年11月30日（月）～12月12日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、機械システム工学科では前期5科目、後期4科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。この 7 項目について、3.86～4.63 まで分布している。工学部平均と学科平均を比較すると、前期結果の 7 項目は、すべて上回っている。一方で、後期結果の 7 項目は、すべて下回っている。本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術はある程度高いレベルに達しているが、一部の特定授業で不十分な状態であると判断できる。総合的満足度を問う設問 8 は、前期 3.87 と工学部平均 3.70 を上回るが、後期 3.75 は工学部平均 4.01 を下回っている。総合的満足度の結果は、前記 7 項目の状況を反映した結果と考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、大半の授業では比較的高評価を受けているが、一部特定授業において改善を必要とする状況である。学科授業では、全体的に理系特有の理論、数式を扱う授業が多く、恒常的に授業技術・授業手法の改善・向上に取り組む必要性がある。一部教員において、昨年に引き続き授業に新しい手法を積極的に取り入れながらも評価の低いケースが発生している。昨年度の結果を考慮して、年度当初に学科長と教務委員が、当該教員の授業を参観し意見・感想をフィードバックする対応を行った。また、今年度の結果が思わしくなかったことを受け、昨年同様に学科長が当該教員と面談を行い、改善努力を促した。さらに、当該教員をサポートするため、学科長と教務委員が担当する授業を参観してもらい、報告書を提出してもらっている。報告内容は、他教員授業を参観して気づいた点と改善方針である。本改善方針に沿い授業改革に取り組めば、評価結果が向上するものと予想している。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：工学部平均と学科平均を比較すると、学科平均が工学部平均を上回ったのは次である。前期結果の「出席状況」、「受講の工夫」、「学習の成果」、後期結果ではない。昨年度の結果と比べると、低下傾向にあり、原因究明と改善取り組みが必要である。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学修の必要性を理解し、自ら学ぶ姿勢に誘導する必要がある。学修の動機づけ、興味・関心の誘発等を促すための対応に重点を置きたいと考える。学科全体としては、共通的な授業科目も含め学生が主体となり、授業に参加できるようにアクティブラーニングの導入を促進している。アクティブラーニングの比率を高めて学生の自主性、主体性を引き出すように改善を進めるようにしたい。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。学生に対するフィードバックは、全教員が行った。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回、アンケート結果取得直後の講義時、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。各学科教員は、それぞれの結果を真摯に受けとめ評価している。それぞれの場合に応じて、これからの対応を検討したり、既に実行したりしている。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 次回授業の内容調査レポートを提出させ、予習を必ず行わせて、授業内容の理解度を高める。

(2) 授業時間外の学修時間確保。

(3) 授業支援システム”セレッソ”を活用した授業時間外学修の促進。

(4) SGD形式授業実施。積極的學生と消極的學生の二極化が生じ、対応を検討する。

(5) 授業内容のレベルを下げることなく、学修の必要性、重要性が學生に伝わるように授業運営の改善に取り組む。

(6) 授業で学んだ事柄が将来役に立つということを認識させることが重要。

(7) 評価基準のルーブリックを受講生に提示して、成績評価の基準や力点を受講生に十分伝え、受講生のモチベーションを維持する。

(8) 學生の発表・プレゼンテーション機会の増加と方法の検討。

【8】 総括

学科教員の多数が、授業評価アンケートの結果を冷静に分析し、各自の授業の問題点と原因究明、問題解決方針の検討等に関して記述し、積極的に取り組む姿勢を示している。

従来から、学科では数式や論理的内容を含んだ座学型授業が多く、アクティブラーニングをどのように導入し、学修成果向上を目指すのが重要課題である。近年は、各教員の改善努力により、このような授業のアンケート結果も向上傾向にあると思われる。各教員の取組みや対策を共有化して活用する対応を目指したいと考える。

昨年度と今年度は、教養ゼミで実践型マナー教育を実施したり、学科必修入門科目で企業見学を取入れたり、資格取得対策講座にてグループ活動やプレゼンテーションを試行する等、学科共通科目において授業改善を図っている。これらの授業評価アンケートを実施し、点検する必要があると思われる。

<生命工学部 生物工学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、生物工学科では前期 8 科目、後期 6 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：進行、話し方、計画性、時間、講義の工夫、質問への誠意に関しては、学科平均がいずれも 4.0 を越えており、授業の技術においては問題ないと考えられる。特

に、昨年と比べて、講義の工夫の点数が上がっており、この点については評価できる。しかしながら、必ずしも講義の満足度に繋がっていないことが懸念材料である。

分析結果を踏まえた改善方策：学生から見た時の授業の満足度をさらに上げるような方策を講じていきたい。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：出席状況、知識の深まりに関しては、学科平均がほぼ 4.0 以上であり、学生の授業への取り組みは良好であると考えられる。しかしながら、授業の準備、質問への積極性に関しては、学科の平均が 3.0 を下回っており、授業や教員に対する働き掛けが乏しいと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、PBL や SGD 等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員に対して集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは授業の最終回までに教員ごとに行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

授業評価アンケートの内容やシステムについての意見は特になかった。しかしながら、学生が故意に悪意を込めた回答を行った形跡が認められた。この点については、アンケートに答えたくなければ、白紙提出でも構わない旨を予め通達した方がいいのではないかと。もちろん評価から除外することを前提で。

【8】 総括

学生の自発的な学修を促すような授業の組み立てを模索していく必要がある。このようなことを通して、講義の満足度の向上につなげていきたい。生物工学科では、カリキュラムの変更やシラバスの作成において十分に討議しているが、より実質的な議論を展開することが必要であろう。平成 28 年度のシラバス作成においては、学科内で徹底的な点検を実施した。

<生命工学部 命栄養科学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
 後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、命栄養科学科では前期 5 科目、後期 8 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ株）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 8 項目の多くで、学科の平均値が学部の平均値の±0.1 以内におさまっていた。「難易の適切性」は、学部平均を前期が 0.19、後期が 0.22 上回っていて、学生の理解に合わせた授業を行っていると考えられる。「講義の満足度」は、学部平均より前期で 0.07、後期で 0.06 上回り、おおむね適切な授業が行われていると考え、改善の余地がある。個々の教員の評価に対する改善策は報告書に記載されている通りである。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、特段の問題点は見られないが、授業の満足度の向上のために今後も一層の改善努力を続ける。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：学生自身の学習点検に関する 8 項目も、概ね学科の平均値が学部の平均値の±0.1 以内におさまっていた。「集中力」と「出席状況」は高い傾向にあり、授業態度

は良好と判断する。ただし、「授業の準備」、「質問への積極性」、「学習の成果」は低い傾向で、授業が受け身になっている可能性が高く、改善が必要である。

分析結果を踏まえた改善方策：授業に臨む学生の態度に問題はないもの、積極性が不足し、学習の成果に結びつきにくい傾向が観察された。何のための学習で、何をなすべきかを意識し、学習に対するモチベーションの維持・向上させるために、学生個々の目標を常に明確にするように指導する。そのために、入学時ならびに各学年の講義開始時期に、個人目標の作成・再確認を実施する。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科の各教員に対して集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

【6】 学生へのフィードバックについて

提出された報告書に記載している通り、すべての対象科目で講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が学生に対するフィードバックを行った。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

特になし

【8】 総括

授業アンケートの学生の参加率は高く、授業の状況を反映していると考えられる。アンケート結果についても、多少のばらつきはあるものの概ね学部平均に近い結果となり、大きな問題は示されていない。一方で、授業の進め方などにまだまだ改善点は多く、担当教員は意欲をもって取り組もうとしている。

生命栄養科学科は、管理栄養士養成施設であり、国家資格を目指す学生の指導にあっている。学生の理解と国家資格試験のレベルには差があり、講義の内容・レベルの設定に苦慮している。国家資格試験を真剣に目指す学生と必ずしも目指していない学生とが混在していて、このアンケート調査では両方の学生の平均値が示されていることになる。両者の満足度を十分に満たす授業は難しい。

<生命工学部 海洋生物科学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
 後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、海洋生物科学科学科では前期 7（数字）科目、後期 6（数字）科目、夏季集中講義 1 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇ 「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：教員の授業技術に関する 7 項目の学科平均値は、前期に実施した 7 科目では 4.23 であり学部平均値の 4.28 をやや下回ったが、後期に実施した 7 科目では 4.41 と学部平均値と同じであった。これらの項目については前後期ともに標準値を上回っており、本学科教員の授業技術に概ね問題はないと判断できる。総合的満足度を問う設問 8 の平均値は前期 7 科目では 3.78 と学部平均の 3.86 をやや下回ったが、これは前期に評価を受けた科目に基礎的な内容の科目が多く含まれていたためと分析している。後期 7 科目では逆に 4.19 と学部平均値の 4.13 を若干上回った。総合的満足度については授業技術に関する項目の評価よりもやや低めの値となっているが、標準値は上回っており大きな問題はないと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：昨年度にも見られた基礎的な内容の科目で講義の満足度が

低めとなる問題については、担当教員がそれぞれに工夫を行っているものの未だ大きな改善が見られていない。現在、平成 29 年度から適用する新カリキュラムの策定作業を進めているが、その中で基礎的な科目の位置付けや授業方法・内容について分析と検討を進め、この点について改善を図りたい。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：自己点検に関する 8 項目の学科平均値は、前期に実施した 7 科目では 3.40、後期に実施した 7 科目では 3.48 であり、いずれも学部平均値とほぼ同じであったが、前後期ともに標準値をわずかに下回った。また、昨年度に引き続きこちらでもやはり基礎的な内容の科目が学科平均値を下げる結果となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：昨年度に、基礎的な内容の科目であっても毎講義時に前回学んだ内容に関する小テストを実施した科目について「授業の準備」と「学習の成果」の 2 項目では全学平均をかなり上回る値が得られた。この例から、授業時間外の学修を誘導することにより学修成果の改善を図ることが可能であると考えられるので、新カリキュラムの策定と平行して、基礎的な内容の科目について授業内容・方法を検討していきたい。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果については、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それぞれの科目について授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 86%であった。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 疑問に対して学生が意見を言えるような講義内容にしていきたい。
- (2) 学生の能動的な学びを喚起させる工夫が必要である。
- (3) 講義の最後に次回に向けた事前学修の課題を提供し、講義時間外の学生の学修を促したい。

【8】 総括

本学科の授業に関するアンケート結果はほぼ学部平均と同レベルであり、授業の方法や内容に大きな問題は生じていないと判断できるが、基礎的な内容の科目については方法・

内容に一層の改善が必要と考えている。

<薬学部 薬学科>

平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】 実施期間 前期：平成 27 年 6 月 11 日（木）～6 月 24 日（水）
 後期：平成 27 年 11 月 30 日（月）～12 月 12 日（土）

【2】 対象科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、薬学科では前期 27 科目、後期 22 科目について調査を行った。

【3】 アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】 調査結果の集計

調査結果は外部（リョービシステムズ㈱）に集計作業を委託した。集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。なお、調査結果は、大学教育センター教育評価改善部門から、学部長経由で配付されたものを受理した。

【5】 調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：前期授業評価では、教員の授業評価に関する 8 項目のうち 5 項目が全体平均を上回っており、薬学部の授業が一定程度学生から評価されていると考えられる。特に、「質問への誠意」については、4.42 と高い評価を得ており、薬学部教員が学生に対して真摯に向き合っていることが示されている。全体平均を下回ったのは、「教員の授業の進め方は適切ですか？（全体平均 4.31、薬学部 4.23）」と「教員の話し方は明瞭ですか？（全体平均 4.28、薬学部 4.26）」の 2 項目であった。学生からは、日常的に「授業の進行スピードが速い。」という意見が寄せられており、このことが影響したことも考えられる。後期授業評価でも、同様の傾向が認められた。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術については、特に問題はないと判断している。学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：前期授業評価では、質問8項目のうち7項目で全体平均を上回った。学生はしっかりと目標をもって学修に取り組んでいると考えられる。全体平均を下回ったのは、「授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？（全体平均 3.01、薬学部 2.90）」であった。また、全体平均を上回ったものの、評価が低かったのが、「この授業に関して、1回の講義あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか。」であった。学生の46.3%が予習・復習の時間が30分未満と回答しており、早急に改善策を考える必要がある。

分析結果を踏まえた改善方策：「授業内容について、質問したいと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？（全体平均 3.01、薬学部 2.90）」に対しては、2つの対応を取りたいと考える。一つは、オフィスアワーをしっかりと明示して、学生がいつ質問に行けば良いかを把握できる環境を整備することである。ゼルコバにオフィスアワーを記載しているが、会議等で不在になることも多く、細やかな設定は必要である。もう一つは教員からの積極的な声かけである。教員室に質問に行くことに対して、心理的なハードルを感じている学生も存在する。教員から学生に声をかけて、質問に行きやすい雰囲気と環境作りを行っていききたい。

【5】 教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求めた。学生に対するフィードバックは前期終了までに行った。

【6】 学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。また、ゼルコバを通じてフィードバックのコメントを行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

【7】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

特に、意見や提案はない。

【8】総括

今回のアンケート調査では、薬学部における授業の実施と学生成果に実態を表す結果が得られたと考えている。薬学部は教育年限が6年間であり、学修意欲を持続させること、および、4年次の薬学共用試験と6年次の薬剤師国家試験に合格できる学力を修得してもらうことが重要である。授業評価アンケートの結果を踏まえて、引き続き教育改善に努めていく必要がある。